

# 四万十市埋蔵文化財発掘調査報告

平成10年～平成16年度 古津賀遺跡群試掘確認調査報告書



2007.3

四万十市教育委員会



出土した祭祀に関わる遺物



出土した弥生時代の土器

# 四万十市埋蔵文化財発掘調査報告

平成10年度～平成16年度 古津賀遺跡群試掘確認調査報告書

2007.3

四万十市教育委員会

## 刊行にあたって

四万十市は、豊かな山々から流れてる四万十川をはじめ、後川、中筋川の河川の恵みを受けて、古くから高知県西南部の拠点として発展を遂げてまいりました。

現在、私どもは、その歴史を物語る多くの遺跡や史跡といった文化遺産を受け継いでいます。

本書で報告します古津賀遺跡群が所在する古津賀地区は、後川左岸に位置し、幡多地域では数少ない古墳が残る地域として知られています。

古津賀地域は平成10年度より土地区画整理事業が進められ、現在はその姿を大きく変えました。本報告は、この区画整理事業に先立ち、地域に残る歴史の一端を知るべく広範囲に実施した埋蔵文化財試掘確認調査の成果をまとめたものです。

調査対象となった面積は260,000㎡を超え、本市にとってこれまでにない広範囲なものとなりました。この結果、これまで「古津賀遺跡」として知られていた遺跡は「古津賀遺跡群」と名称を変え、範囲が広域におよぶものであることが明らかとなりました。加えて、遺跡の範囲に含まれる多様な時代や集落のすがたも徐々に解明されつつあります。

本書に掲載いたしました成果が、地域文化の保護や理解のための資料として、また郷土の魅力を引出す糸口として、わずかでも貢献できれば幸いです。

この試掘確認調査は、土地区画整理組合や、土地の所有者、近隣にお住まいの方々の深いご理解とご協力によって支えられたものであります。また、調査の実施にあたりましては高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センターをはじめとする関係諸機関より、格別のご指導とご配慮をいただきました。皆様のお力添えに深く感謝致しますとともに、今後とも四万十市文化財行政にご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

四万十市教育長 宮地 昭一郎

## 例 言

1. 本書は平成 10 年度から平成 16 年度に、高知県四万十市古津賀地域において国庫補助事業として実施した試験確認調査を報告するものである。

2. 現地調査の呼称、調査期間、担当者は以下の表のとおりである。

なお、トレンチの名称は調査ごとに任意でつけられていたが、本書では調査単位での連番とし、下表の地区名を加えて、「A-1」のように記載する。

地区名	調査記号	調査年度	調査期間	調査担当者	対象面積 (㎡)	調査面積 (㎡)
A	98-1NK	平成 10 年度	平成 10 年 4 月 15 日～平成 10 年 7 月 31 日	小林麻由	12,400	721
B	98-2NK	平成 10 年度	平成 10 年 9 月 16 日～平成 10 年 10 月 21 日	小林麻由	8,140	300
C	99-4NK	平成 11 年度	平成 11 年 8 月 24 日～平成 11 年 9 月 30 日	小林麻由	36,000	448
D	99-7NK	平成 11 年度	平成 11 年 11 月 24 日～平成 12 年 1 月 8 日	小林麻由	7,000	1,030
E	00-2NK	平成 12 年度	平成 12 年 7 月 27 日～平成 12 年 10 月 6 日	山本哲也	28,500	800
F	2001002	平成 13 年度	平成 13 年 6 月 15 日～平成 13 年 6 月 26 日	川村慎也		24
G	2001003	平成 13 年度	平成 13 年 8 月 27 日～平成 13 年 11 月 14 日	川村慎也	40,900	315
H	2002003	平成 14 年度	平成 14 年 8 月 19 日	川村慎也	165	18
I	2002004	平成 14 年度	平成 14 年 8 月 5 日～平成 14 年 8 月 20 日	川村慎也		336
J	2002010	平成 14 年度	平成 14 年 9 月 30 日～平成 14 年 10 月 28 日	川村慎也	88,200	640
K	2002012	平成 15 年度	平成 15 年 4 月 14 日～平成 15 年 5 月 2 日	川村慎也	16,187	150
L	2003004	平成 15 年度	平成 15 年 5 月 7 日～平成 15 年 5 月 9 日	川村慎也	746	25
M	2003001	平成 15 年度	平成 15 年 10 月 7 日～平成 15 年 10 月 17 日	川村慎也	35,000	192
N	2004010	平成 16 年度	平成 16 年 10 月 13 日～平成 16 年 10 月 15 日	川村慎也	2,756	50

3. 各調査は、四万十市教育委員会が主体となって調査をおこなった。

4. 古津賀遺跡群は、平成 13 年に周知の埋蔵文化財包蔵地「古津賀遺跡」の範囲を加除修正し、「古津賀遺跡群」と名称を改めた。本文中では特に必要のない限り古津賀遺跡は古津賀遺跡群と読み替えて表記している。

5. 出土遺物等の整理作業は、四万十市教育委員会 生涯学習課 川村の指導のもと以下の参加者の助力を得た。

平成 17 年度 秋森正久、伊賀原美智子、川村陽子、佐竹慎也、野町和人、前田依代、松田康平

平成 18 年度 秋森正久、今城裕美、尾崎幸美、野町和人、前田哲子、安光七重

6. 本書の執筆、編集は四万十市教育委員会 生涯学習課 川村が担当した。

7. 調査の実施と本書の作成にあたり、高知県教育委員会文化財課、(財)高知県埋蔵文化財センター諸氏よりご指導、ご助言を、また当市都市整備課、工事関係者、ならびに近隣にお住まいの方々には多大なご支援とご協力をいただいた。ここに銘記して謝意を表す。

8. 当調査に関わる遺物、写真、図面等は、四万十市教育委員会 生涯学習課 [TEL0880(3)47311] において保管している。

9. なお、旧中村市は平成 17 年 4 月に旧西上佐村と旧町村合併を行い四万十市となっている。本文中ではこれをうけて固有名称が必要な場合を除き、中村市を四万十市と置き換えて表記している。

## 目 次

巻頭原色図版

刊行にあたって (四万十市教育委員会 教育長 宮地 昭一郎)

例 言

第1章 調査の経過と遺跡の環境 1

第2章 試掘確認調査の成果 3

写真図版

報告書抄録

# 図版目次

## 第 I 章 調査の経過と遺跡の環境

図 1	古津賀遺跡群周辺の遺跡分布図 (1/25,000)	1
-----	---------------------------	---

## 第 II 章 試掘確認調査の成果

### A 区 (98-1NK)

図 2	調査地点位置図	4
図 3	A 区 柱状図 1(1:40)	5
図 4	A 区 柱状図 2	6
図 5	A 区 柱状図 3	7
図 6	A 区 柱状図 4(1:40)	8
図 7	A 区 柱状図 5	9
図 8	A 区 柱状図 6	10
図 9	A 区 出土遺物実測図 1	11
図 10	A 区 出土遺物実測図 2	12

### B 区 (98-2NK)

図 11	調査地点位置図	13
図 12	B 区 出土遺物実測図	13
図 13	B 区 柱状図 1(1:40)	14
図 14	B 区 柱状図 2	15

### C 区 (99-4NK)

図 15	調査地点位置図	16
図 16	C 区 柱状図 1(1:40)	17
図 17	C 区 柱状図 2	18
図 18	C 区 柱状図 3	19
図 19	C 区 出土遺物実測図	20

### D 区 (99-7NK)

図 20	調査地点位置図	21
図 21	D 区 柱状図 1(1:40)	23
図 22	D 区 柱状図 2(1:40)	24

### E 区 (00-2NK)

図 23	調査地点位置図	25
図 24	E 区 柱状図 1(1:40)	26
図 25	E 区 柱状図 2(1:40)	27
図 26	E 区 柱状図 3	28
図 27	E 区 柱状図 4	29
図 28	E 区 出土遺物実測図	30

### F 区 (2001002)

図 29	調査地点位置図	31
図 30	F 区 柱状図 (1:40)	31

### G 区 (2001003)

図 31	調査地点位置図	32
図 32	G 区 出土遺物実測図	33

図 33	G 区 柱状図 1(1:40)	34
図 34	G 区 柱状図 2	35
図 35	G 区 柱状図 3(1:40)	36
図 36	G 区 柱状図 4	37

### H 区 (2002003)

図 37	調査地点位置図	38
図 38	H 区 柱状図 (1:40)	38

### I 区 (2002004)

図 39	調査地点位置図	39
図 40	セクション位置図 (1:1000)	39
図 41	I 区 断面図 (1:80)	40
図 42	I 区 SX-1 平面図 (1:50)	41
図 43	I 区 出土遺物実測図 1	42
図 44	I 区 出土遺物実測図 2	43

### J 区 (2002010)

図 45	調査地点位置図	44
図 46	J 区 出土遺物実測図	45
図 47	J 区 柱状図 1(1:40)	46
図 48	J 区 柱状図 2	47
図 49	J 区 柱状図 3(1:40)	48
図 50	J 区 柱状図 4(1:40)	49
図 51	J 区 柱状図 5	50

### K 区 (2002012)

図 52	調査地点位置図	51
図 53	K-1 溝平面・断面図 (1:50)	51
図 54	K-3 遺構平面図 (1:50)	52
図 55	K-4 遺構平面図 (1:50)	52
図 56	K 区 柱状図 (1:40)	53

### L 区 (2003004)

図 57	調査地点位置図	55
図 58	L 区 柱状図 (1:40)	55

### M 区 (2003001)

図 59	調査地点位置図	56
図 60	M 区 柱状図 (1:40)	57

### N 区 (2004010)

図 61	調査地点位置図	58
図 62	N 区 柱状図 (1:40)	58

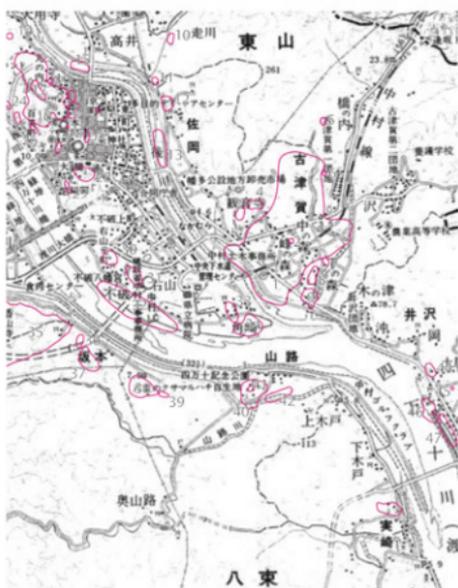
### 遺物観察表

出土遺物観察表 1～4	60～63
-------------	-------

### 折込図版

図 63	調査範囲図	64～65
図 64	トレンチ配置図 1	66～67
図 65	トレンチ配置図 2	68～69

## 第1章 調査の経過と遺跡の環境



1. 古津賀遺跡群 2. 古津賀古墳 3. 新倉古遺跡 4. 新倉寺城跡 5. 古津賀山岡城遺跡 6. 中中山遺跡 7. オカノハナ遺跡 8. 平ノ下古墳遺跡 9. 石岡城跡 10. 志田城跡 11. 石河原城跡 12. 長岡城跡 13. 佐賀城跡 14. 山内忠通の墓 15. 後川内城跡 16. 一乗居の墓 17. 古城山遺跡 18. 高松城跡 19. 中村幸行居跡 20. 土佐一乗氏遺跡 21. 五郎の墓 22. 一乗居の墓 23. 中村謙和跡 24. 地蔵山遺跡 25. 石見遺跡 26. 山遺跡 27. 中村白塚 28. 石ノ古城跡 29. 野崎山遺跡 30. 平岡城跡 31. 池ノ内城跡 32. 平岡遺跡 33. 尾城遺跡 34. 中村遺跡 35. 赤心寺跡 36. 松本遺跡 37. 堂ノ山遺跡 38. 中ノ下古墳跡 39. 弓張古墳跡 40. 山岡城跡 41. 山岡遺跡 42. 菅長ノ前遺跡 43. チノ山城跡 44. 月沢城跡 45. 白雲山古墳 46. 竹尾城跡

▶ 図1 古津賀遺跡群周辺の遺跡分布図 (1/25,000)

### ▼ 遺跡の環境

四万十市は高知県の西南部、四万十川流域の河口部に位置する幡多地域の一拠点である。市街地は、山間をぬうように南流する四万十川の河口付近で、中筋川・後川の2河川が合流して形成される中州に開け、発展を遂げてきた。市街地を離れると、丘陵と河川にはさまれる狭小な平野や丘陵際に小規模の集落が点在する。また、市内の地質に目を向けると、市の全域が中生代白亜紀の四万十帯に含まれており、市内では海底火山の活動によって生成された枕状溶岩等を確認することができる。

古津賀遺跡群が所在する古津賀地区は、後川左岸の後背湿地上に位置しており、集落は山裾や、独立丘陵の辺縁に展開している。かねてより後川の氾濫による水害の常襲地域でもあり、近年の堤防工事等によって災害は減少しているものの、降水量の多い際には床下浸水等の生じやすい地域でもある。

### ▼ 遺跡の概要

古津賀遺跡は、昭和30年の後川左岸築堤工事の際に発見され、古墳時代の遺物等を出土する埋蔵文化財包蔵地として認識されるようになった。とくに有孔円板や、土製鏡、手づくね土器といった祭祀関連遺物が多く出土し、河川に伴う祭祀関連遺跡として評価されている。また、古津賀遺跡が所在する古津賀地区は、幡多地域で数少ない古墳が存在する地区としても知られている。古墳は、横穴式石室をもつ円墳で、すでに墳丘の一部は削平されているが、復元される直径は12mほどで、両袖式の石室内からは有蓋高坏や鉄鏡、馬具といった副葬品が出土している。「古津賀」の地名はこの古墳に由来するとの伝承もある。

この他にも弥生時代中期以降に盛行する在土土器、南四国型甕等が出土するなど古墳時代以外にも遺物・遺構の展開する可能性が示唆される複合的な遺跡であり、中筋川左岸に広がる祭祀関連遺跡、具同中山遺跡群と対をなして四万十市を代表する遺跡の一つである。

なお、古津賀遺跡は本報告で取り上げる調査によってその範囲が大きく広がることが確認され、平成13年(2001年)に、県教育委員会との協議を経て、オツケバ遺跡など周辺の小遺跡を包括する埋蔵文化財包蔵地となった。名称も古津賀遺跡群と変更し、東西1.5km、南北1kmをはかる広域な遺跡として知られることとなった。

### ▼ 調査に至る経過

本報告で取り上げる調査は、中村市古津賀土地区画整理組合が、平成10年以降進めてきた区画整理事業にともなう試掘確認調査が大半を占める。区画整理事業は47haを対象に平成17年まで実施され、当該事業によって古津賀地区は大きくその姿を変えることとなった。この事業に先立ち、四万十市教育委員会は、区画整理組合と調整をとり、埋蔵文化財の残存・分布状況を把握するため広範囲に試掘確認調査を実施するはこびとなった。調査は、区画整理事業の進行状況に応じて対象範囲を決定し、遺構・遺物の残存状況を確認するためのトレンチを設定した。

なお、この試掘調査の結果を受けて、これまでに6次にわたる本発掘調査が実施され、古津賀遺跡群の性格を明らかにする多くの知見が得られている。

## 第Ⅱ章 試掘確認調査の成果

---

## 古津賀遺跡群 (A区: 98-1NK)

所在地	古津賀字西中野、ホウシボウ、岸ノ下、ハギノ森
調査期間	1998.4.15 ~ 1998.7.31
調査原因	土地区画整理事業
調査面積	721 m <sup>2</sup> (12,400 m <sup>2</sup> )
時代	弥生~古墳時代
調査種別	試掘確認調査



▶ 図2 調査地点位置図

### ▼ 調査の経過

古津賀遺跡群は後川左岸に立地する沖積低地上の遺跡であり、古墳時代後期の祭祀関連遺物を出土する遺跡として知られていた。周辺には横穴式石室をもつ古津賀古墳が存在するなど、旧来から周辺に遺跡の存在する可能性が示唆されてきたが、これまでは遺物を出土した後川左岸堤防治いの一部のみが埋蔵文化財包蔵地として周知されていた。

平成10年度より古津賀土地区画整理事業が計画立案されたことを期に、その計画範囲に対して埋蔵文化財の有無を確認するために試掘確認調査を実施するはこびとなった。

### ▼ 調査の概要

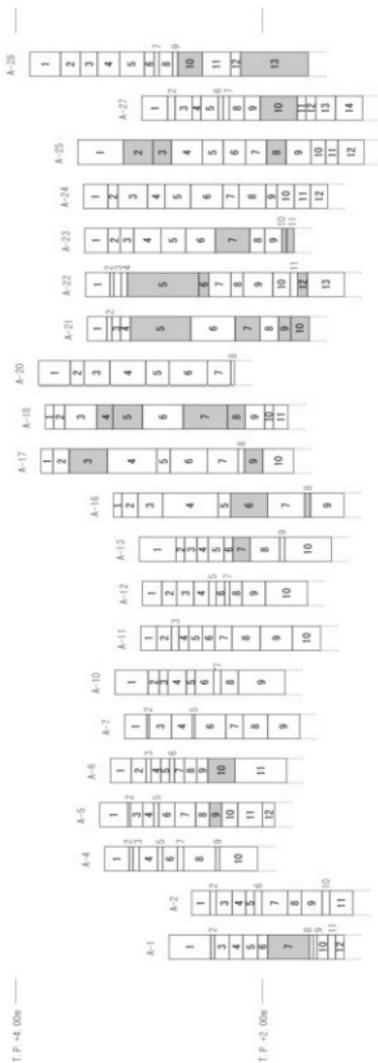
平成10年度には、範囲内で2度にわたって試掘確認調査を実施している(98-1NK、98-2NK)。今次調査では対象範囲に対して50カ所のトレンチを設定し、堆積層の確認及び遺構・遺物の検出を行った。

トレンチ調査を実施した範囲は、国道56号線をはさんで南側の岸ノ下・西中野地区と、北側のホウシボウ・ハギノ森地区の2つに大別することができる。

**堆積の状況** 国道南側の岸ノ下・西中野地区では、旧耕作土下にグライ化の進行したシルト~粘土層が互層に堆積している。周辺地域の堆積状況については、平成17年に本発掘調査報告にておこなった整理と大きな相違は見られない。国道北側においても堆積は類似した状況が観察されるが、A-50付近では地表面から約1m下で黄褐色の締まった基盤層が確認されることから、かつてはハギノ森丘陵の先端部がA-50トレンチ付近まで延びていたことが想定される。

**国道南側の状況** 各トレンチからは、古墳時代の須恵器・土師器にくわえて古代~中近世の所産と考えられる土師器、陶磁器、および弥生土器、石器等が出土している(図9・図10)。古墳時代の遺物は、後述する国道北側も含めて広域にその分布をとらえることができるが、国道南側で特徴的であるのは、弥生時代や中近世の包含層が確認できることである。特に国道56号線と直交する県道下田線周辺ではT.P.+3.0m付近で中近世の包含層、T.P.+2.0m以下で弥生時代の包含層が確認されている。(図3)。

この包含層からは、図9-18~21に示す弥生時代中期の南四国型狭口縁部および体部片等が出土する。弥生時代の包含層については、当該試掘調査成果をもとに実施された本発掘調査(古津賀遺跡

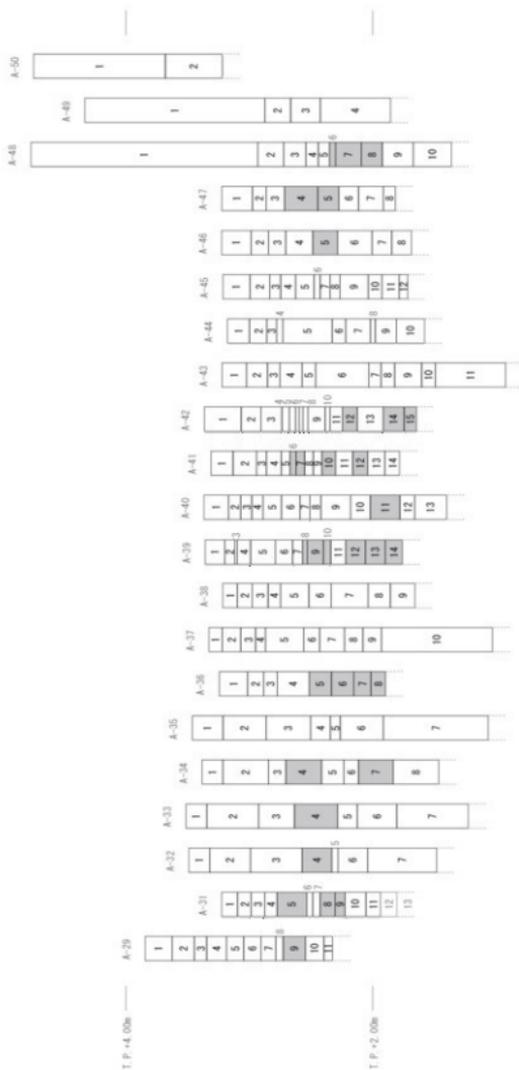


▶ 図 3 A区 柱状図 1 (1:40)



- ▼ A.18
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 灰褐色粘質土
  4. 明灰褐色粘質土(近部の包含層)
  5. 灰褐色粘質土(中部の包含層)
  6. 灰褐色粘質土(近部の包含層)
  7. 明灰褐色粘質土(近部の包含層)
  8. 明灰褐色粘質土(近部の包含層 遺物数多い)
  9. 灰褐色土
  10. 灰褐色粘質土(灰多く含む・遺物数乏しい)
  11. オリーブ灰色粘質土(灰・遺物無し)
- ▼ A.19
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 灰褐色土
  4. 明灰褐色粘質土
  5. 明褐色粘質土
  6. 灰褐色粘質土
  7. 明灰褐色粘質土(植物遺体含む)
  8. 明褐色粘質土
- ▼ A.21
1. 灰土1
  2. 灰土2
  3. 灰土
  4. 明灰褐色粘質土(灰多く含む・遺物)
  5. 明褐色粘質土(灰多く含む・遺物)
  6. 明褐色粘質土(灰多く含む・遺物)
  7. 明灰褐色粘質土(古代～中近部の包含層 遺物数多い)
  8. 明オリーブ灰色粘土
  9. 灰褐色シルト(包含層)
  10. 灰褐色シルト(包含層)
- ▼ A.22
1. 灰土1
  2. 灰土2
  3. 灰土
  4. (層) 明灰褐色粘土
  5. 明灰褐色粘質土(中部の包含層)
  6. 灰褐色粘質土(中部の包含層)
  7. 明灰褐色粘質土
  8. 明灰褐色粘質土
  9. 明灰褐色粘質土
  10. 明灰褐色粘質土
  11. 灰褐色粘土
  12. 灰褐色土(包含層 灰化物含む)
  13. オリーブ灰色シルト(灰化物含む)
- ▼ A.23
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 灰褐色粘質土
  4. 明灰褐色粘質土層
  5. 灰褐色粘質土
  6. 明灰褐色粘質土
  7. 明灰褐色粘質土(遺物の層・埋蔵品土)
  8. 明褐色粘質土(砂子多い・Fe層、砂層有り)
  9. 灰褐色粘質土(砂子多い・Fe層)
  10. 明灰褐色粘質土(包含層)
  11. 灰褐色土層(包含層)
- ▼ A.24
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 灰褐色粘質土
  4. 明灰褐色粘質土
  5. 灰褐色粘質土
  6. 明灰褐色粘質土
  7. 明灰褐色粘質土
  8. 明褐色粘質土
  9. 明褐色粘質土
  10. 灰褐色土
  11. オリーブ灰色シルト
- ▼ A.25
1. 灰土
  2. 明褐色粘質土(中部の包含層)
  3. 明褐色粘質土(中部の包含層)
  4. 明褐色粘質土
  5. 明灰褐色粘質土
  6. 明灰褐色粘質土
  7. 灰褐色粘質土
  8. 灰褐色粘質土(古代の包含層)
  9. 灰褐色シルト
  10. 灰褐色粘質土(灰化物含む)
  11. オリーブ灰色シルト
  12. 灰褐色砂土
- ▼ A.27
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 明褐色粘質土
  4. 明褐色粘質土
  5. 明褐色粘質土
  6. 明褐色粘質土
  7. 明褐色粘質土
  8. 明褐色粘質土
  9. 明褐色粘質土
  10. 明褐色粘質土(包含層 灰化物含む)
  11. 明褐色粘質土(包含層)
  12. 明褐色粘質土(包含層)
  13. 灰褐色粘質土(灰化物含む・Fe層有り)
  14. 濃灰褐色シルト
- ▼ A.28
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 灰褐色粘質土
  4. 明灰褐色粘質土
  5. 灰褐色粘質土
  6. 明灰褐色粘質土
  7. 明灰褐色粘質土
  8. 灰褐色粘質土
  9. 灰褐色粘質土
  10. 灰褐色粘質土(中部の包含層 東津高塚遺跡II層粘土)
  11. 明灰褐色粘土
  12. 灰褐色シルト
  13. 灰褐色シルト(包含層)

▶ 図 5 A 区 柱状図 3



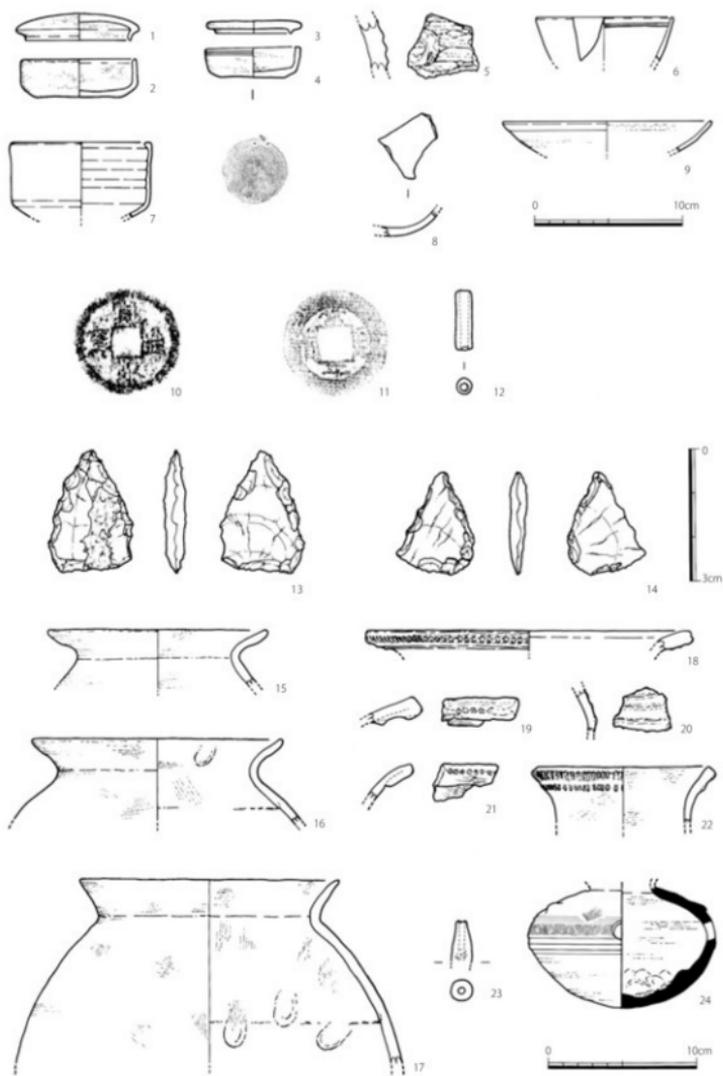
▶ 図6 A区 柱状図4 (1:40)

- ▼ A-29
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 灰褐色粘質土
  4. 明灰褐色粘質土
  5. 灰褐色粘質土
  6. 灰褐色粘質土
  7. 明灰褐色粘質土
  8. 灰褐色粘質土
  9. 明灰褐色粘質土(包含層)
  10. 黒褐色粘質土
  11. 灰褐色粘質土
- ▼ A-31
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 明灰褐色粘質土
  4. 明灰褐色粘質土
  5. 明灰褐色粘質土
  6. 明灰褐色粘質土(包含層 灰化物質含む)
  7. 灰褐色粘質土
  8. 灰褐色粘質土(包含層)
  9. 灰褐色粘質土
  10. 灰褐色粘質土
  11. 明灰褐色粘質土(包含層 灰化物質含む)
  12. 明灰褐色粘質土(包含層)
  13. 灰褐色粘質土(包含層)
- ▼ A-32
1. 灰土
  2. 明灰褐色粘質土(包含層 灰化物質含む)
  3. 明灰褐色粘質土(包含層 灰化物質含む)
  4. 灰褐色粘質土
  5. 明灰褐色粘質土
  6. 明灰褐色粘質土
- ▼ A-33
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 灰褐色粘質土
  4. 明灰褐色粘質土(包含層)
  5. 明灰褐色粘質土
  6. 灰褐色粘質土
  7. 濃褐色粘質土(植物遺体含む)
- ▼ A-34
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 灰褐色粘質土
  4. 青灰色粘質土(包含層)
  5. 明灰褐色粘質土
  6. 明灰褐色粘質土
  7. 灰褐色粘質土(中層部で包含層)
  8. 明灰褐色粘質土(新物遺体含む)
- ▼ A-35
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 灰褐色粘質土
  4. 明灰褐色粘質土
  5. 白灰褐色粘質土
  6. 濃褐色粘質土(新物遺体含む)
  7. 明灰褐色粘質土(植物遺体含む)
- ▼ A-36
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 濃褐色粘質土(包含層)
  4. 明灰褐色粘質土
  5. 白灰褐色粘質土
  6. 濃褐色粘質土(植物遺体含む)
  7. 明灰褐色粘質土(植物遺体含む)
- ▼ A-37
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 濃褐色粘質土
  4. 濃褐色粘質土
  5. 灰褐色粘質土
  6. 灰褐色粘質土
  7. 灰褐色粘質土
  8. 濃褐色粘質土
  9. 濃褐色粘質土
  10. 灰褐色粘質土
  11. 明灰褐色粘質土(包含層 濃褐色粘質土)
  12. 明灰褐色粘質土(包含層)
  13. 灰褐色粘質土
- ▼ A-40
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 灰褐色粘質土
  4. 明灰褐色粘質土
  5. 灰褐色粘質土
  6. 灰褐色粘質土
  7. 濃褐色粘質土
  8. 濃褐色粘質土
  9. 灰褐色粘質土
  10. 灰褐色粘質土
  11. 明灰褐色粘質土(包含層 濃褐色粘質土)
  12. 明灰褐色粘質土(包含層)
  13. 灰褐色粘質土
- ▼ A-41
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 濃褐色粘質土
  4. 灰褐色粘質土
  5. 明灰褐色粘質土
  6. 明灰褐色粘質土(包含層 灰化物質含む)
  7. 濃褐色粘質土(包含層 灰化物質含む)
  8. 明灰褐色粘質土
  9. 明灰褐色粘質土
  10. 濃褐色粘質土
  11. 明灰褐色粘質土(包含層 灰化物質含む 灰褐色粘質土)
  12. 明灰褐色粘質土(包含層)
  13. 濃褐色粘質土
  14. 明灰褐色粘質土
- ▼ A-38
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 濃褐色粘質土
  4. 濃褐色粘質土
  5. 灰褐色粘質土
  6. 灰褐色粘質土
  7. 灰褐色粘質土
  8. 濃褐色粘質土
  9. 濃褐色粘質土
- ▼ A-39
1. 灰土
  2. 灰土
  3. 濃褐色粘質土
  4. 濃褐色粘質土(包含層 灰化物質含む)
  5. 灰褐色粘質土
  6. 明灰褐色粘質土(包含層 灰化物質含む)
  7. 明灰褐色粘質土
  8. 明灰褐色粘質土
  9. 明灰褐色粘質土
  10. 明灰褐色粘質土(包含層 灰化物質含む)
  11. 濃褐色粘質土(包含層)
  12. 明灰褐色粘質土
  13. オリーブ灰色粘質土(包含層)
  14. 黄オリーブ灰色粘質土(包含層)

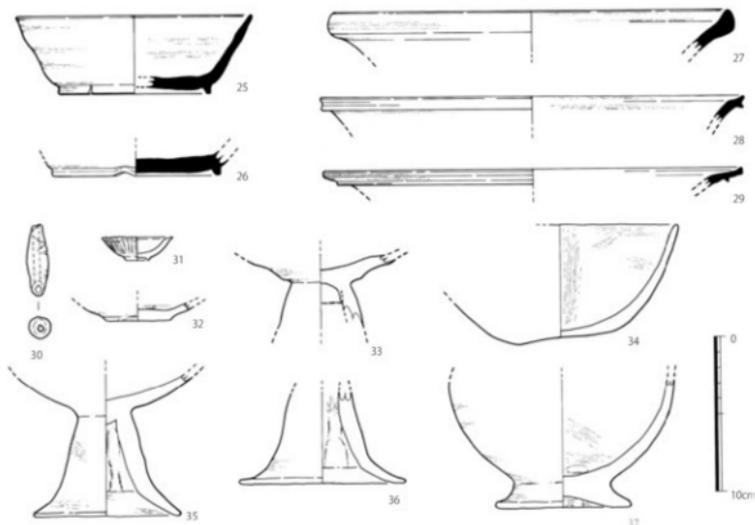
▶ 図7 A区 柱状図5

- ▼ A-42
1. 瓦上
  2. 床土
  3. 灰色腐質土
  4. 灰褐色腐質土
  5. 白色シルト
  6. 褐色腐質土
  7. 褐色腐質土
  8. 褐色腐質土
  9. 灰褐色腐質土
  10. 灰褐色腐質土
  11. 灰褐色腐質土
  12. 明灰色腐質土(包含層)
  13. 褐色シルト
  14. 褐色シルト(包含層)
  15. オリーブ灰色シルト(包含層)
- ▼ A-43
1. 瓦上
  2. 床土
  3. 灰褐色腐質土
  4. 灰色シルト(包含層)
  5. 褐色シルト
  6. 灰褐色シルト
  7. 褐色シルト
  8. 明灰色シルト(動物遺体を含む)
  9. 灰色腐土
  10. 灰色腐土
  11. 動物遺体層
- ▼ A-44
1. 瓦上
  2. 床土
  3. 明灰色腐質土
  4. 灰色腐質土
  5. 灰褐色シルト(包含層あり)
  6. 褐色シルト
  7. 褐色シルト
  8. 褐色シルト
  9. 灰褐色シルト
  10. 明灰色シルト
- ▼ A-45
1. 瓦上
  2. 褐色腐質土
  3. 灰色腐質土
  4. 灰褐色腐質土
  5. 明灰色シルト
  6. 褐色腐質土
  7. 褐色シルト
  8. 白色シルト(褐色腐質土の混入)
  9. 褐色シルト
  10. 動物遺体層
  11. 褐色シルト
- ▼ A-46
1. 瓦上
  2. 床土
  3. 灰褐色腐質土
  4. 灰色シルト
  5. 明灰色シルト(かわらけ片・細化した餅片を含む)
  6. 明灰色シルト(褐色シルトを含む)
  7. 灰褐色土層(明灰色腐質土・泥・木片を含む)
  8. 褐色シルト
- ▼ A-47
1. 瓦上
  2. 床土
  3. 灰褐色腐質土
  4. 灰色腐質土(φ10cm 程度の硬質土、泥の包含層)
  5. 褐色シルト(泥の包含層)
  6. オリーブ灰色シルト(黄褐色シルト・プロトゾア層)
  7. 動物遺体層
  8. 灰褐色シルト(等積)
- ▼ A-48
1. 瓦上
  2. 灰褐色シルト
  3. 青灰色シルト
  4. 灰褐色シルト
  5. 灰色シルト
  6. 褐色シルト(包含層)
  7. 灰褐色シルト(包含層)
  8. 明灰色シルト(包含層 泥化物を含む)
  9. オリーブ灰色シルト
  10. 灰色シルト
- ▼ A-49
1. 盛り上
  2. 灰色シルト層
  3. 灰褐色シルト層(細砂混入)
  4. 灰褐色シルト層
- ▼ A-50
1. 盛り上
  2. 厚砂層

▶ 図 8 A 区 柱状図 6



▶ 図9 A区 出土遺物実測図1



▶ 図10 A区 出土遺物実測図2

群第1次、第5次調査)<sup>(1)</sup>から、集落に伴う遺構群が確認されているが、中近世の包含層については明確な遺構等を確認し得ておらず、现阶段では時期幅のある現象的に包含層と呼ぶべき堆積といえるにとどまる。

国道北側の状況 国道北側のハウシボウ、ハギノ森地区ではA-30、39、40など数カ所のトレンチで古墳時代の遺物が密に出土する状況が確認されている。図13に示すこの結果をもとに、都市計画道路古津賀中央線敷設時には2回の本発掘調査(古津賀遺跡群第2次、第4次調査)が実施されており、古墳時代後期の住居址等の存在が明らかとなった。当該地区では弥生時代や中近世の遺物量は減少し、合子(図9-3、4、7)等がわずかに知られるものの、明確な包含層はとらえきれていない。

#### ▼まとめ

今次調査では、国道の北側と南側の2地区を対象に、比較的広い範囲で埋蔵文化財の分布状況を確認する機会を得た。この調査によって、これまでその広がりが見えられながらも確認し得なかった古津賀遺跡群の規模を部分的にはあるが明らかにすることができた。また、既知の古墳時代の遺物の他に、あらたに弥生時代の遺物・遺構の存在、および大まかな広がりを確認できたことは古津賀遺跡群の消長を考えるうえで重要な知見を得たといえよう。

とくに国道56号線南側では後川の自然堤防に沿うように広い範囲で弥生時代～古墳時代の遺物・遺構の分布が確認され、国道北側ではハギノ森西側に古墳時代の包含層を確認し得た。今後は、この成果をうけ、古津賀遺跡群の消長や広がりについてより具体的な検討が可能になるものと考えられる。

(1) 『古津賀遺跡群』第1次～第6次発掘調査報告 2006 四万十市教育委員会

## 古津賀遺跡群 (B区: 98-2NK)

所在地	古津賀字松谷口、北東澤、イゲノ前
調査期間	1998.9.16 ~ 1998.10.21
調査原因	土地区画整理事業
調査面積	300 m <sup>2</sup> (8,140 m <sup>2</sup> )
時代	弥生~古墳時代
調査種別	試掘確認調査



▶ 図11 調査地点位置図

### ▼ 調査の経過

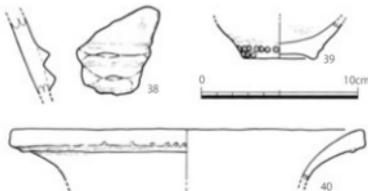
当該調査は、平成10年4月~7月に実施された試掘確認調査に引き続き、国道56号線北部の区画整理事業計画範囲で埋蔵文化財の有無等を把握するために実施された試掘確認調査である。従来、古津賀サコヤシキ遺跡、オツケバ遺跡、観音寺遺跡等小範囲の遺跡が点在することが知られている地域ではあるが、これまで発掘調査は実施されておらず、具体的な状況が明らかになされていなかったため、今次調査の成果に期待がよせられた。

### ▼ 調査の概要

今回はA区に隣接する松谷口、北東澤、イゲノ前に、3~5m四方のトレンチを18ヶ所設定し、埋蔵文化財の残存状況について調査を実施した。掘削については重機を併用し、必要に応じて人力による掘削を行い、層序や出土遺物、遺構について記録保存を心がけた。

**堆積の状況** 堆積の状況は、基本的に耕作土の下にやや土壌化した極細粒砂層が堆積し、その下にはグライ化したシルト~粘土層が互層に堆積する。また、A区の調査結果に比して特徴的であるのは、多くのトレンチで植物遺体等の腐食によって形成されたと考えられる層位が確認されることである。遺物包含層の多くはこの植物遺体層の下部もしくは下層に存在する。遺物の出土する高さは、若干幅は認められるものの、T.P.+2.00m前後を測り、現況の地表面で観察される高低差よりは起伏の少ない旧地形が想像される。

**出土した遺物** 出土遺物は概ね弥生時代中~後期の所産と考えられるものが主となる(図12-38~40)。39は壺底部であり、外面の周囲に1~2重の竹管文を施文して加飾している。38は断面三角形をなす貼付け突帯文が2条配される体部片である。当該時期市内で確認される土器の一般的な胎土に比べ褐色が強く、夾雑物も少ない。搬入品であろうか。40は南四国型甕口縁部である。粘土帯の貼付けにより口縁部を肥厚させ、口縁端部はナデ調整で仕上げている。口縁部外面には微隆起突帯を1条めぐらせ、口唇部下縁に不連続な刻み目が配される。



▶ 図12 B区 出土遺物実測図



- ▼B-7  
1. 表土  
2. 床土  
3. 灰褐色粘質土  
4. 灰色シルト  
5. 2.5Y 4/1 暗赤灰色シルト  
6. 5Y 4/1 灰色シルト (植物遺体多く含む)  
7. 5YR 3/2 暗赤褐色粘土 (植物遺体層)
- ▼B-8  
1. 表土  
2. 床土  
3. 灰褐色粘質土  
4. 灰色シルト (Fe 沈着あり)  
5. 2.5Y 4/1 暗赤灰色シルト (植物遺体層)  
6. 5Y 4/1 灰色シルト (植物遺体含む 炭化物有り)  
7. 暗青灰色砂質土 (植物遺体 砂岩含む)
- ▼B-9  
1. 表土  
2. 床土  
3. 10YR 5/8 黄褐色粘質土  
4. 5Y 3/1 黒褐色粘質土  
5. 5Y 4/1 期灰色粘質土  
6. N 5/0 灰色シルト (包含層 植物遺体含む)  
7. 7.5R 4/1 暗赤灰色シルト (植物遺体層)  
8. 青灰色砂質土 (植物遺体含む)
- ▼B-10  
1. 表土  
2. 床土  
3. 5Y 4/1 灰色粘質土 (φ2～3cm の礫多く含む)  
4. 7.5YR 4/2 灰色シルト  
5. N 3/0 暗灰色粘質土  
6. 10B 4/1 暗青灰色砂質土 (植物遺体含む)  
7. 7.5YR 3/1 暗赤灰色シルト (植物遺体多く含む)  
8. 10B 4/1 暗青灰色砂質土 (植物遺体層)  
9. 7.5YR 3/1 暗赤灰色シルト
- ▼B-11  
1. 表土  
2. 床土  
3. 7.5YR 4/2 灰褐色粘質土  
4. 5YR 3/1 黒褐色粘質土  
5. 5B 5/1 青灰色砂質土 (シルト若干混入)  
6. 暗赤灰色シルト (植物遺体層)  
7. 5B 5/1 青灰色砂質土 (少量礫混入)
- ▼B-12  
1. 表土  
2. 床土  
3. 7.5YR 4/2 灰褐色粘質土  
4. 10YR 4/1 期灰色粘質土  
5. 5YR 3/1 黒褐色粘質土  
6. 暗赤灰色シルト (植物遺体層)  
7. 7.5Y 4/1 灰色シルト 強い粘質
- ▼B-13  
1. 表土  
2. 床土  
3. 灰褐色粘質土  
4. 灰色シルト  
5. 7.5YR 4/1 期灰色粘質土  
6. 5B 4/1 暗青灰色砂礫層 (φ2～3cm 礫多く混入)  
7. 暗赤灰色シルト層 (植物遺体層)  
8. 青灰色砂質土層 (包含層)
- ▼B-14  
1. 表土  
2. 床土  
3. 灰褐色粘質土  
4. 暗青灰色砂礫層  
5. 植物遺体層と暗青灰色砂礫砂混じった層  
6. 暗青灰色砂礫層 (包含層 植物遺体含む)  
7. 植物遺体層 (植物遺体含む)
- ▼B-15  
1. 表土  
2. 床土  
3. 5Y 4/1 灰色粘質土  
4. 5YR 3/1 黒褐色粘質土  
5. 5Y 4/1 灰色シルト (Fe 沈着あり)  
6. 灰褐色シルト (5層) に比してやや暗色)  
7. 5Y 5/1 灰色シルト (5層) に比してやや淡色)  
8. 10B 5/1 青灰色砂礫層 (包含層)
- ▼B-16  
1. 表土  
2. 床土  
3. 5Y 4/1 灰色粘質土  
4. 5YR 3/1 黒褐色粘質土 (礫混入)  
5. 10R 4/1 植物遺体層 (植物遺体含む)  
6. 5Y 6/1 灰色シルト (植物遺体・炭化物含む)  
7. 5Y 5/1 灰色シルト (植物遺体含む)  
8. 10Y 4/1 灰色シルト (植物遺体含む)  
9. 5B 6/1 青灰色粘質土 (礫混入 植物遺体含む)
- ▼B-17  
1. 表土  
2. 床土  
3. 緑灰色砂礫層  
4. 5YR 4/4 に近い赤褐色砂礫層 (包含層)  
5. 10B 4/1 暗青灰色砂礫層  
6. 暗赤灰色シルト (植物遺体層)  
7. 灰色シルト層 (植物遺体・炭化物含む)  
8. 暗青灰色砂礫層  
9. 灰色シルト層 (包含層 遺物類は微量)
- ▼B-18  
1. 表土  
2. 床土  
3. 5YR 5/1 期灰色粘質土  
4. 7.5Y 5/1 灰色シルト (Fe 沈着あり)  
5. 5YR 2/1 黒褐色粘質土

▶ 図 14 B 区 柱状図 2

## ▼まとめ

当該調査で遺物を確認し得たトレンチは、A 区ホウシボウ地区の辺縁に位置する B-1、B-2 を除けば、いずれも丘陵の裾部分にあたる。B-5、B-10 はイゲノヒラ丘陵の南西裾にあたり、B-13、B-14、B-15、B-17 はナルザキハナ丘陵の北側裾部分にあたる。調査時の記録にも出土する遺物の摩滅が著しいことが記されており、出土遺物のすべてがプライマリなものでない可能性が示唆される。なお、ナルザキ丘陵の上部平坦面では、平成 12 年の本発掘調査 (古津賀遺跡群第 3 次調査) が実施されており、弥生時代中～後期の集落址が確認されている。このような状況を鑑みると、東ナルザキ丘陵裾部と類似した遺物出土状況が確認されているイゲノヒラ、イゲノハナ丘陵上部平坦面にも良好な遺構群が残存している可能性が指摘できよう。

## 古津賀遺跡群 (C区: 99-4NK)

所在地	古津賀字西中野、岸ノ下
調査期間	1999.8.24 ~ 1999.9.30
調査原因	土地区画整理事業
調査面積	448㎡ (36,000㎡)
時代	弥生~古墳時代、中近世
調査種別	試掘確認調査



▶ 図15 調査地点位置図

### ▼ 調査の経過

当該調査は、ショッピングセンター店舗新設に先立って実施された試掘確認調査である。調査地点の南側は、平成10年度に土地区画整理事業にともなう試掘確認調査が実施されており、すでに埋蔵文化財の存在が知られている。今回の調査ではその成果をうけて、周辺への埋蔵文化財の広がり の確認が主な目的となった。

### ▼ 調査の概要

調査トレンチは構造物の建設予定範囲を中心に、28カ所を設定した。いずれも4m×4m程度のトレンチを重機を併用して掘削し、必要に応じて人力による精査、図面の作成、写真撮影を行った。設定したトレンチのうち、16カ所で遺構および遺物が確認された。一部は旧耕土直下で確認される中近世の遺物が含まれるが、大半は地表より1.5m~2m程掘削したシルト層に含まれる、弥生時代~古墳時代の所産と考えられる遺構と遺物である。以下ではとくに明確な遺構等を確認したトレンチについて詳細を記すこととする。

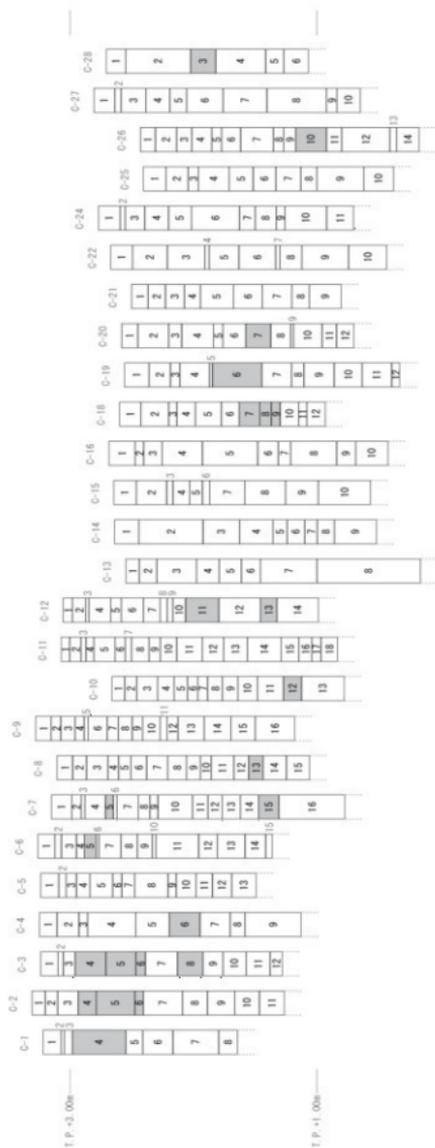
C-3 地表より30~90cm掘削した、4~6層中より中近世の所産と考えられる陶磁器片等が確認されるが、図化可能なものはなく、出土遺物の示す時期も幅を持つものと考えられる。8層は、黒褐色を呈する古墳時代の遺物を含む包含層であり、8層掘削中の精査により、8層中において、黄褐色の埋土をもつ柱穴を1基確認している。柱穴は残存する直径が17cm、深さ18.5cmを測る。

C-19 地表より約1.8m下方で、遺物包含層(6層)を確認した。6層からは図19に示す手づくね土器(47)、壺(49)、椀(46)、高坏脚部(45、48)等が出土する。包含層除去後の7層上面での精査では、焼土や炭化物を埋土に含む、残存径40cm程の浅い土坑が確認されている。

C-20 C-19トレンチの東側に位置するトレンチである。概ねC-19と類似する堆積状況を示し、7層から古墳時代の土師器片が出土する。C-19に比して包含層はグライ化が進行しているようにみられるが、ここでも前述トレンチと同様、埋土中に焼土と炭化物の混入する浅い土坑が確認されている。

### ▼ まとめ

今次調査では、A区の調査で確認された包含層の広がりを概ね追認できる結果を得た。遺物・遺構



▲ 図 16 C 区 柱状図 1 (1:40)



- ▼C-28
1. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
  2. 10YR 4/3 に赤、黄褐色粘質土
  3. 2.5Y 4/2 暗灰褐色粘質土(土層の上)
  4. 2.5Y 4/1 黒色シルト (F6 泥層下層)
  5. 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土 (団塊層)
  6. 2.5Y 4/1 黒色シルト (F6 泥層下層)
  7. 2.5Y 4/1 黒色シルト (団塊層下層部)
  8. 5Y 4/2 灰赤カーリーシルト

- ▼C-24
1. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
  2. 暗灰褐色粘質土
  3. 5Y 5/2 灰赤カーリー粘質土
  4. 10YR 4/3 に赤、黄褐色粘質土
  5. 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土
  6. 2.5Y 4/1 黒色シルト (団塊層)
  7. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色粘質土 (団塊層)
  8. 5Y 4/1 黒色シルト
  9. 10Y 4/1 オリーブ褐色シルト (団塊層下部部)
  10. 7.5Y 4/2 灰赤カーリーシルト (植物遺体含む)
  11. 7.5Y 4/2 灰赤カーリーシルト (植物遺体含む)
  12. 10Y 4/1 灰色シルト

- ▼C-25
1. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
  2. 5Y 5/2 灰赤カーリー粘質土
  3. 5Y 4/1 灰色粘質土
  4. 5Y 5/1 灰色粘質土
  5. 10Y 4/1 灰色シルト
  6. 2.5Y 5/1 黒色シルト
  7. 2.5Y 4/1 黒色シルト
  8. 2.5Y 5/1 黒色シルト
  9. 2.5Y 5/1 黒色シルト
  10. 5Y 3/2 オリーブ褐色シルト

- ▼C-26
1. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
  2. 5Y 5/2 灰赤カーリー粘質土
  3. 5Y 4/1 灰色粘質土
  4. 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土
  5. 5Y 4/2 灰赤カーリー粘質土
  6. 2.5Y 5/2 暗灰褐色粘質土
  7. 5Y 4/1 灰色粘質土
  8. 10Y 3/1 オリーブ褐色シルト (植物遺体含む)
  9. 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土 (団塊層 植物遺体含む)
  10. 2.5Y 4/1 黒色シルト (植物遺体含む)
  11. 2.5Y 4/1 黒色シルト (植物遺体含む)
  12. 5Y 4/1 灰色粘質シルト
  13. 7.5Y 4/1 灰色粘質シルト
  14. 7.5Y 4/2 灰赤カーリー粘質シルト

- ▼C-27
1. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
  2. 暗灰褐色粘質土
  3. 5Y 5/2 灰赤カーリー粘質土
  4. 10YR 4/1 黒色粘質土 (F6 泥層下層)
  5. 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土
  6. 2.5Y 4/1 黒色シルト (F6 泥層下層)
  7. 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土
  8. 5Y 4/1 灰色粘質土
  9. 7.5Y 4/1 灰色シルト
  10. 7.5Y 4/1 ~ 5/1 オリーブ灰色粘質シルト

- ▼C-19
1. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
  2. 暗灰褐色粘質土
  3. 5Y 5/2 灰赤カーリー粘質土
  4. 10Y 4/3 に赤、黄褐色粘質土
  5. 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土 (団塊層)
  6. 2.5Y 4/1 黒色シルト (団塊層)
  7. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色粘質土 (団塊層)
  8. 5Y 4/1 黒色シルト
  9. 10Y 4/1 オリーブ褐色シルト
  10. 10Y 4/1 灰色シルト
  11. 7.5Y 4/2 灰赤カーリーシルト
  12. 10Y 4/1 灰色シルト

- ▼C-20
1. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
  2. 暗灰褐色粘質土
  3. 5Y 5/2 灰赤カーリー粘質土
  4. 10YR 4/3 に赤、黄褐色粘質土
  5. 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土
  6. 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土
  7. 10YR 5/6 黄褐色粘質土
  8. 2.5Y 4/2 灰赤カーリーシルト (団塊層)
  9. 10YR 4/1 黒色粘質土 (団塊層下層部含む)
  10. 10Y 4/1 灰色シルト
  11. 7.5Y 4/2 灰赤カーリーシルト
  12. 10Y 4/1 灰色シルト

- ▼C-21
1. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
  2. 2.5Y 4/1 黒色粘質土
  3. 2.5Y 5/1 黒色粘質土
  4. 5Y 5/1 灰色粘質土
  5. 5Y 5/1 灰色粘質土
  6. 7.5Y 4/1 灰色シルト
  7. 2.5Y 4/1 オリーブ褐色粘質土
  8. 2.5Y 4/1 オリーブ褐色粘質土
  9. 7.5Y 3/1 オリーブ褐色シルト (植物遺体部)

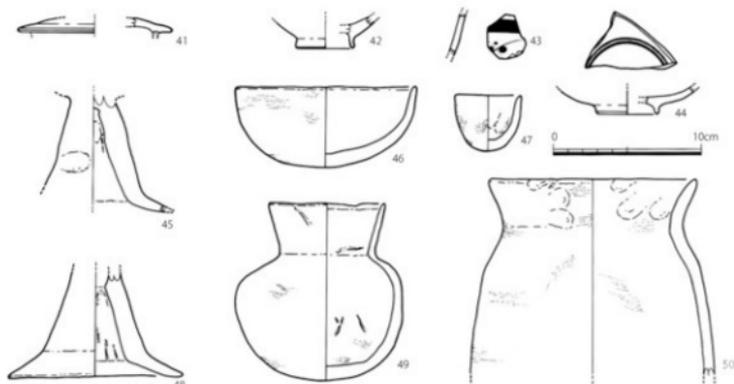
- ▼C-22
1. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
  2. 暗灰褐色粘質土
  3. 5Y 5/2 灰赤カーリー粘質土
  4. 10YR 4/1 黒色粘質土 (F6 泥層下層)
  5. 10YR 4/1 黒色粘質土 (F6 泥層下層)
  6. 10YR 4/1 黒色粘質土 (F6 泥層下層)
  7. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色粘質土
  8. 5Y 4/1 灰色粘質土
  9. 7.5Y 4/1 灰色シルト
  10. 7.5Y 4/1 ~ 4/2 の暗灰赤カーリーシルト

- ▼C-14
1. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
  2. 暗灰褐色粘質土
  3. 7.5Y 4/1 灰色シルト (F6 泥層下層)
  4. 10Y 4/1 灰色シルト
  5. 3Y 5/1 ~ 4/1 灰色シルト
  6. 2.5Y 4/1 黒色シルト
  7. 2.5Y 4/1 黒色シルト
  8. 5Y 4/1 灰色粘質土
  9. 7.5Y 3/1 オリーブ褐色シルト

- ▼C-15
1. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
  2. 暗灰褐色粘質土
  3. 5Y 5/2 灰赤カーリー粘質土
  4. 10YR 4/3 に赤、黄褐色粘質土
  5. 5Y 4/2 灰赤カーリー粘質土
  6. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色粘質土
  7. 10YR 7/2 黄褐色粘質土
  8. 10YR 5/6 黄褐色粘質土
  9. 10YR 4/1 黒色粘質土 (団塊層)
  10. 7.5Y 3/2 オリーブ褐色シルト

- ▼C-16
1. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
  2. 10YR 4/3 に赤、黄褐色粘質土
  3. 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土
  4. 2.5Y 4/2 暗灰褐色粘質土
  5. 2.5Y 4/1 黒色粘質土
  6. 7.5Y 4/1 灰色シルト (炭化物少し混じる)
  7. 5Y 3/1 灰褐色シルト (炭化物多く含む)
  8. 2.5Y 4/1 黒色シルト (炭化物、有機物含む)
  9. 7.5Y 3/1 灰褐色シルト (炭化物多く含む)
  10. 10Y 4/1 灰色シルト (炭化物混)

- ▼C-18
1. 10YR 3/1 黒褐色粘質土
  2. 2.5Y 4/1 黒色粘質土
  3. 2.5Y 5/1 灰色粘質土
  4. 5Y 5/1 灰色粘質土
  5. 5Y 5/1 灰色粘質土
  6. 7.5Y 4/1 灰色シルト
  7. 2.5Y 4/1 黒色粘質土 (団塊層)
  8. 5Y 5/1 灰色粘質土 (団塊層)
  9. 2.5Y 5/1 灰色粘質土 (団塊層)
  10. 7.5Y 3/1 オリーブ褐色シルト (植物遺体部)
  11. 7.5Y 4/2 灰黄褐色粘質土
  12. 5Y 4/1 灰色粘質土



▶ 図19 C区 出土遺物実測図

が確認される場合とそうでない場合があるが、堆積の順序に大きな変化は認められず、急激な旧地形の変化も看取されない。したがって、全体としては比較的密度の低い包含層が、岸ノ下、西中野付近に存在するものと考えられる。しかし、A区で古墳時代の遺物がT.P.+2mより高位で出土していたのに対して、C区ではより低い位置で出土するケースが多い。このことから周辺の旧地形は北側にむかって緩やかに下がるものと想定できる。また、A区では弥生時代の遺物が少量ながら確認されていたが、C区では該当期の遺物等は確認し得ていない。A区のトレンチ最下部で弥生時代の包含層が確認されていることを勘案すると、C区において確認されないのは、掘削深度による可能性もあり、当該時期の包含層が存在しないとは断定できない。これについては今後の調査時に留意が必要であろう。

## 古津賀遺跡群 (D区：99-7NK)

所在地	古津賀字カドノハナ、東ナルザキ
調査期間	1999.11.24～2000.1.8
調査原因	土地区画整理事業
調査面積	1,030㎡(7,000㎡)
時代	弥生～古墳時代
調査種別	試掘確認調査



▶ 図20 調査地点位置図

### ▼ 調査の経過

当該調査は、古津賀土地区画整理事業に伴う試掘確認調査である。調査は、国道56号線をはさんで南側に位置するカドノハナ地区と、国道北側丘陵上の東ナルザキ地区に対して実施された。カドノハナ地区はA区・D区で調査した西中野地区に近接し、埋蔵文化財が残存する可能性が高いと考えられた地点である。また、東ナルザキ地区は舌状に南に張り出した丘陵の平坦部に位置し、A区の調査では当該丘陵の北側辺縁部でローリングを受けた土器片を確認するなど、丘陵上に埋蔵文化財の残存する可能性を示唆する成果を得ていた。

### ▼ 調査の概要

調査はカドノハナ地区については4m×4m程のトレンチを5カ所設定し、重機を併用して土層の堆積状況及び埋蔵文化財の残存状況を確認した。東ナルザキ地区については、丘陵上の平坦部であり、堆積自体は浅いものであることが想定されたため、帯状に幅と長さをとったトレンチ設定を行い、より遺構の検出に重心をおいた調査に努めた。

**カドノハナ地区** カドノハナ地区では、調査対象地点の現況地盤面が周辺にくらべて、2～3m程高い様相を示していた。当初、これが旧地形の局所的な起伏かと想定されたが、D-1～D-5トレンチの堆積状況を見る限り、周囲との高低差は盛土等、後世の土木工事に起因することが明らかとなった。なお、この地点で包含層を確認できたのは調査範囲の東半に設定したD-3～D-5トレンチである。

出土遺物は土器細片であり、これをもって時期の判別は困難であるものの、A区・D区の調査成果と照らすと、概ね7層が古墳時代の包含層ではないかと考えられる。包含層としては層厚も薄く、密度も希薄である。

盛土が他所にくらべて厚いことを除けば、基本的に類似した堆積状況といえるが、盛土が厚いため、下層の掘削が十分に行えておらず、古墳時代以前の状況については明らかではない。

**東ナルザキ地区** 東ナルザキ地区では、南に尾根の先端をのぼすナルザキ丘陵の平坦部を中心に14カ所のトレンチを設定した。当該地区では遺構の検出状況等によってトレンチ設定箇所を随時決定したため、結果として各トレンチが近接もしくは連結してしまうこととなった。本書では、連結したトレンチについても調査地点の設定単位を用いて説明することとする。

当該地区で遺構および遺物の確認されたトレンチは、D-7、D-8、D-10、D-11、D-12、D-14、D-15である。これらのトレンチの設定個所と丘陵の状況を鑑みると、埋蔵文化財の残存する個所は、尾根の先端平坦部に限られることがわかる。以下ではこれら遺物・遺構の確認されたトレンチについて個別に詳細を記述したい。なお、D区の調査結果を受けて、平成12年4月より7月にかけて本発掘調査が実施されている（古津賀遺跡群第3次調査）。第3次調査の成果は平成17年度に報告書が刊行されており、出土した遺物については、第3次調査報告にて実測図を掲載している。以下の記載で遺物を表記する際には、必要に応じて第3次調査報告で記載した遺物番号を付しているのであわせて参照されたい。

D-8 隅丸長方形のプランをなすSX-1を確認している。長辺3.7m、短辺1.5mをはかり、深さ7cm程が残存する。暗褐色の埋土が堆積し、遺物は出土しない。SX-1の南側で磨製石包丁破損品(531)が1点出土している。

D-10 南西方向への落ち際にあたる丘陵平坦面に設定したトレンチである。当該トレンチでは深さ約30cm弱程の不定形の土坑を確認している。埋土中より弥生時代の所産と考えられる土器片や、姫島産と推測される黒曜石剥片等が出土する。この土坑の南西には幅15cmほどの溝が一条確認されている。埋土中より石鏃未成品(527)が出土する。このほかに数基の柱穴が検出されている。

D-11 設定したトレンチの中でもっとも面積のひろいトレンチである。不定形楕円のプランをもつ土坑、SK-1、SK-2を確認している。SK-1は残存する深さが10cm程度の浅い土坑で、埋土中より弥生土器片、種子等が出土する。SK-2は出土する鉄釘等から比較的新しい時期の遺構である可能性もある。

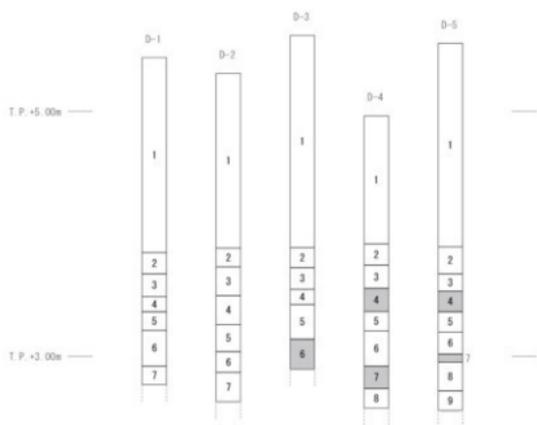
D-14 直径3～4mほどの不定形楕円のプランを確認した。弥生時代の所産と考えられる土器片が少量出土する。当該土坑は、第3次調査によって残存する隅丸方形のプランが確認され、竪穴住居4として報告している。

D-15 トレンチ南端隅で円形のプランを想定させるSX-5を検出した。遺構の内側に周壁溝と思われる浅い溝が確認されることから、竪穴住居の一部であるものと想定された。当該遺構についても、第3次調査において全容が明らかとなり、竪穴住居3として報じている。出土する遺物は、土器片のほか、叩石(525)、砥石破損品(529)等である。このほか同トレンチより扁平片刃石斧(524)の出土も確認されている。

## ▼まとめ

今次調査では、国道56号線南側のカドノハナ地区と、ナルザキ丘陵上の東ナルザキ地区を調査した。カドノハナ地区については、堆積状況は周辺と類似するものの、南西に位置する西中野地区など明確に包含層を確認できる地点とは若干様相を違え、希薄な包含層の一部を確認したにとどまる。

東ナルザキ地区は、これまで辺縁の調査結果から文化財の存在が示唆されてきた地点であったが、今回の調査で丘陵上部平坦面において明確な弥生時代中～後期の遺構群が存在することが明らかとなった。当該地点は第3次調査を実施後、区画整理事業において削平されてしまっている。しかし、周辺地でも、類似した地形上に埋蔵文化財の残存する可能性を示唆できたことは、今後の文化財保護行政において重要な成果であったと考えられる。



▼ D-1

1. 10YR 4/2 灰黒褐色粘質土 (表土)
2. 7.5Y 3/1 オリーブ黒色シルト
3. 5Y 4/1 灰色シルト
4. 7.5Y 4/1 灰色シルト
5. 5Y 5/1 灰色シルト (淡色)
6. 10YR 5/1 褐色シルト
7. 10YR 5/1 褐色シルト

▼ D-2

1. 盛土
2. 7.5Y 3/1 オリーブ黒色シルト
3. 5Y 4/1 灰色シルト
4. 7.5Y 4/1 灰色シルト
5. 5Y 5/1 灰色シルト (淡色)
6. 2.5Y 4/2 暗灰黄色シルト
7. 2.5Y 4/2 暗灰黄色シルト

▼ D-3

1. 盛土
2. 7.5Y 3/1 オリーブ黒色シルト
3. 5Y 4/1 灰色シルト
4. 7.5Y 4/1 灰色シルト
5. 5Y 5/1 灰色シルト (淡色)
6. 10YR 5/1 褐色シルト (包含層等)

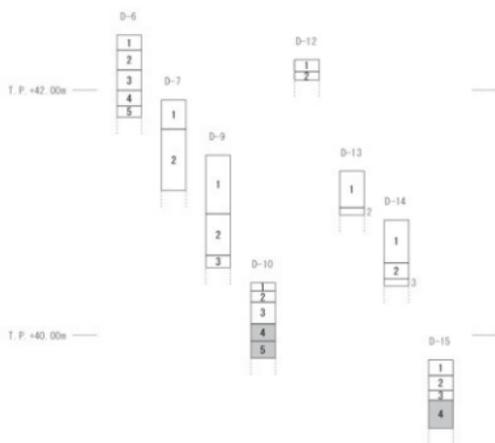
▼ D-4

1. 盛土
2. 7.5Y 3/1 オリーブ黒色シルト
3. 5Y 4/1 灰色シルト
4. 7.5Y 4/1 灰色シルト
5. 5Y 5/1 灰色シルト (淡色)
6. 190YR 5/1 褐色シルト (鐵多く含む)
7. 2.5Y 4/1 暗灰色シルト (包含層 鐵多く含む)
8. 5Y 3/1 オリーブ黒色シルト (炭化物含む)

▼ D-5

1. 盛土
2. 7.5Y 3/1 オリーブ黒色シルト
3. 5Y 4/1 灰色シルト
4. 7.5Y 4/1 灰色シルト
5. 5Y 5/1 灰色シルト (淡色)
6. 10YR 5/1 褐色シルト
7. 5Y 4/2 灰オリーブ粘質土 (黄褐色土混入)
8. 10YR 4/1 褐色粘質土 (Fe 比着する)
9. 灰色シルト (黄褐色土混入 炭化物含む)

▶ 図 21 D区 柱状図 1 (1:40)



▼ D-6

1. 明褐色粘質土
2. 5YR 5/8 明赤褐色粘質土
3. 5YR 5/6 明赤褐色粘質土 (礫混入)
4. 7.5YR 6/8 棕色粘質土 (礫混入)
5. 7.5YR 5/8 明褐色粘質土 (礫層)

▼ D-7

1. 明褐色粘質土
2. 5YR 5/8 明赤褐色粘質土

▼ D-9

1. 7.5YR 5/6 明褐色粘質土
2. 10YR 5/6 黄褐色礫層
3. 7.5YR 5/8 明褐色礫層

▼ D-10

1. 2.5Y 3/2 黒褐色粘質土
2. 10YR 4/6 褐色粘質土
3. 10YR 5/6 黄褐色粘質土 (包含物?)
4. 10YR 5/4 に近い黄褐色粘質土 (遺構埋土)
5. 10YR 6/6 明黄褐色礫層 (遺構埋土)

▼ D-12

1. 表土
2. 基盤層

▼ D-13

1. 2.5Y 4/6 オリーブ褐色粘質土 (旧耕作土)
2. 7.5YR 5/2 明褐色礫層

▼ D-14

1. 2.5Y 4/6 オリーブ褐色粘質土 (礫層が混入 旧耕作土)
2. 10YR 5/6 黄褐色粘質土 (基盤層の礫少量混入)
3. 7.5YR 5/8 明褐色礫層 (基盤層)

▼ D-15

1. 2.5Y 4/6 オリーブ褐色粘質土 (小礫が混入旧耕作土)
2. 10YR 5/4 に近い黄褐色粘質土 (小礫混入)
3. 10YR 4/6 褐色粘質土 (やや土層化する)
4. 10YR 6/6 明黄褐色粘質土 (養生中継の包含物) ▼ D-6
1. 明褐色粘質土
2. 5YR 5/8 明赤褐色粘質土
3. 5YR 5/6 明赤褐色粘質土 (礫混じる)
4. 7.5YR 6/8 棕色粘質土 (山石混じる)
5. 7.5YR 5/8 明褐色粘質土 (薄緑に変色した山石多く混じり、礫層に近い)

▶ 図 22 D区 柱状図 2 (1:40)

## 古津賀遺跡群 (E区：00-2NK)

所在地	古津賀字東潭、ノジリ、西ナルザキ、ナルザキハナ、中野
調査期間	2000.7.27～2000.10.6
調査原因	土地区画整理事業
調査面積	800㎡(28,500㎡)
時代	古墳時代
調査種別	試掘確認調査



▶ 図23 調査地点位置図

### ▼ 調査の経過

当該調査は、平成10年度より実施している古津賀土地区画整理事業に伴う試掘確認調査である。これまで未調査であった、東潭、ノジリ、西ナルザキ、ナルザキハナ、中野地区について、埋蔵文化財の有無等を確認するために実施された。

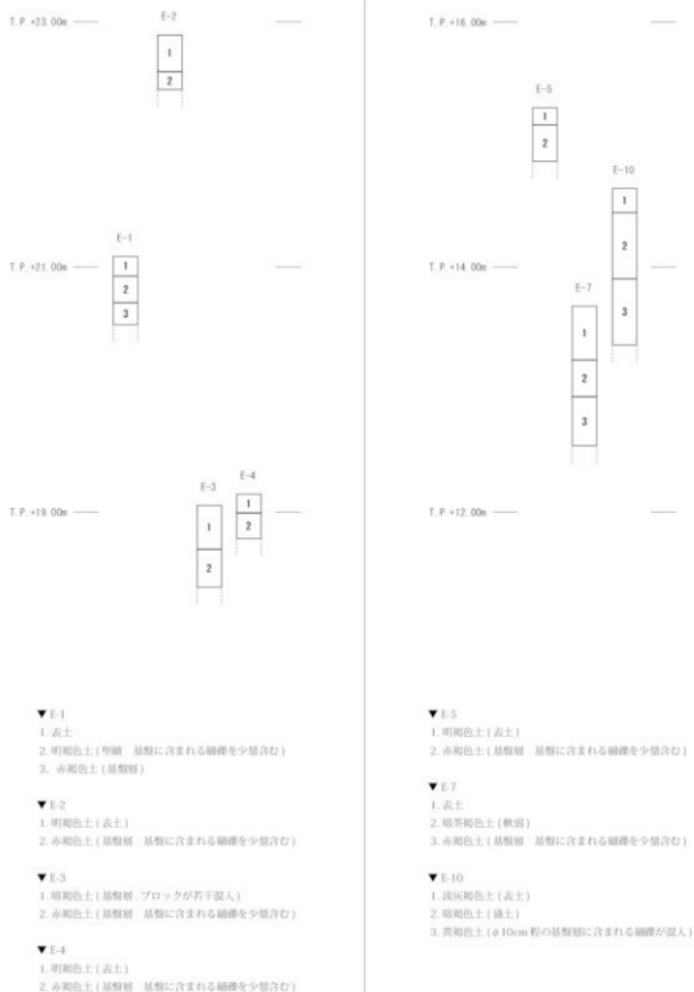
### ▼ 調査の概要

調査は、4m×4m程のトレンチを重機を併用して掘削し、必要に応じて人力での掘削・精査、図面作成、写真撮影等の記録調査をおこなった。調査対象地は、西ナルザキ、ナルザキハナが丘陵上に位置し、東潭・ノジリ地区が国道56号北側、中野地区が国道南側に立地しているため、下記では3地区に区分して調査結果を記すこととする。

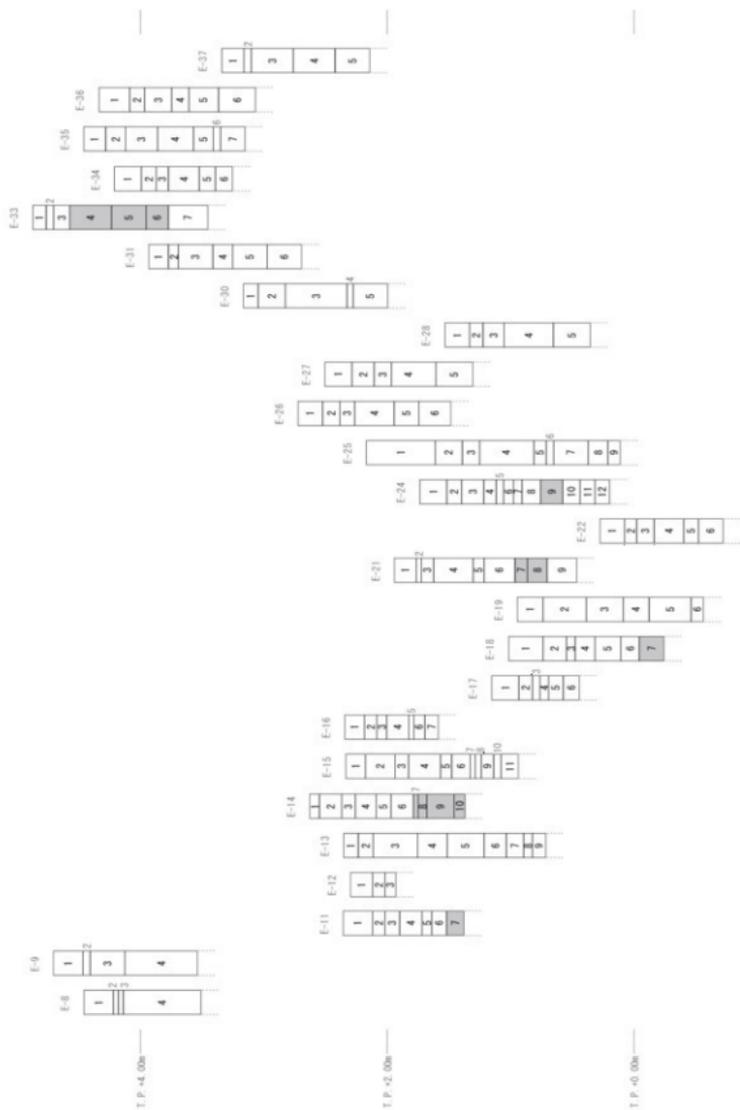
**西ナルザキ・ナルザキハナ地区** ナルザキハナは、標高43mをはかる東ナルザキ地区に比べると、標高約15mと低位にあり、尾根状に狭小な平坦面が存在する。D区の調査においてナルザキ丘陵の上部平坦面で弥生時代中～後期の遺構群を検出しており、その広がりが丘陵の先端部であるナルザキハナ地区に及ぶ可能性が認められたため丘陵の平坦部を中心としたトレンチ調査を実施した。

当該地区に設定したトレンチはE-1～E-10である。このうち遺物を確認し得たのはE-8のみであった。E-8トレンチは丘陵の裾近くの斜面に位置するトレンチであり、古墳時代の所産と考えられる土師器壺が出土している。堆積の状況は全体として浅く、地表から約50～60cmで基盤層に達することが多い。また、E-8、E-9等斜面に設定したトレンチでは裾部に向かって下る斜面堆積が看取される。

**東潭・ノジリ地区** 当該地区は前述したナルザキハナ丘陵の西側に隣接し、浅い谷地形上に位置する地区である。設定したトレンチはE-11～E-30、E-34～E-37である。いずれのトレンチからも湧水が著しく、グライ化の進行したシルト～極細粒砂層が観察される。また、植物遺体を多く含む層位が多くのトレンチで確認されていることも特色として挙げられよう。当地区で遺物を確認したのはE-18、E-21である。E-18からは図28に挙げた高環脚部(58)と口縁端部(55)が出土し、E-21では8世紀後半頃の所産と考えられる須恵器環蓋片(51)のほか、甕(59)、高環(57)等が出土する。両トレンチとも明確な遺構は検出し得ていない。



▶ 図 24 E区 柱状図1 (1:40)

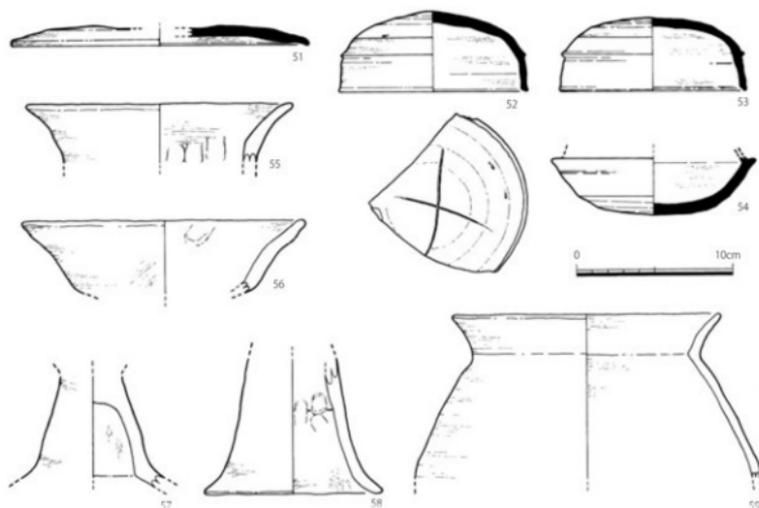


▲ 図 25 E 区 柱状図 2 (1:40)

- ▼ E-8
1. 暗褐色上(表土)
  2. 淡灰褐色上(表土)
  3. 黄褐色上(表土)
  4. 明褐色上(砂礫)
- ▼ E-9
1. 暗褐色上(表土)
  2. 灰褐色上
  3. 淡灰褐色上(砂礫多量)
  4. 赤褐色上
- ▼ E-10
1. 暗褐色上(表土)
  2. 暗褐色上
  3. 淡灰褐色上
  4. 淡灰褐色上(砂礫多量)
  5. 暗褐色上
  6. 赤褐色上
  7. 淡灰褐色上(砂礫多量)
  8. 暗褐色上
  9. 暗褐色上(上部に Fe 付塊状物あり)
  10. 暗褐色上(上部に Fe 付塊状物あり)
- ▼ E-11
1. 暗褐色上(表土)
  2. 淡褐色上
  3. 灰褐色上
  4. 淡灰褐色上
  5. 暗褐色上
  6. 灰褐色上
  7. 暗褐色上
- ▼ E-12
1. 暗褐色上
  2. 淡褐色上
  3. 灰褐色上
- ▼ E-13
1. 赤褐色上(表土)
  2. 暗褐色上(上部に Fe 付塊)
  3. 灰褐色上
  4. 淡灰褐色上(植物遺体少量)
  5. 暗褐色上(植物遺体少量)
  6. 灰褐色上
  7. 淡褐色上
  8. 暗褐色上
  9. 灰褐色上
- ▼ E-14
1. 表土
  2. 表土
  3. 暗褐色上
  4. 淡褐色上
  5. 灰褐色上
  6. 暗褐色上
  7. 暗褐色上(砂礫)
  8. 暗褐色上(砂礫)
  9. 灰褐色上(砂礫)
  10. 淡灰褐色上(砂礫)
- ▼ E-15
1. 表土
  2. 淡褐色上
  3. 淡灰褐色上
  4. 暗褐色上
  5. 灰褐色上
  6. 暗褐色上
  7. 暗褐色上
  8. 明褐色上
  9. 灰褐色上
  10. 淡灰褐色上
  11. 灰褐色上
- ▼ E-16
1. 灰褐色上+黄褐色上(植物体)
  2. 灰褐色上+黄褐色上(植物体)
  3. 灰褐色上+黄褐色上(植物体)
  4. 淡褐色上
  5. 淡褐色上
  6. 灰褐色上
  7. 暗褐色上
- ▼ E-17
1. 砂土(表土)
  2. 暗褐色上
  3. 淡褐色上
  4. 灰褐色上
  5. 淡灰褐色上
  6. 赤褐色上
- ▼ E-18
1. 砂土(表土)
  2. 淡灰褐色上
  3. 灰褐色上
  4. 暗褐色上
  5. 淡赤褐色上
  6. 暗褐色上
  7. 淡灰褐色上(砂礫)
- ▼ E-19
1. 灰砂土(表土)
  2. 暗褐色上
  3. 灰褐色上
  4. 淡灰褐色上
  5. 暗褐色上
  6. 赤褐色上
- ▼ E-20
1. 表土
  2. 暗褐色上
  3. 灰褐色上
  4. 淡褐色上
  5. 暗褐色上
  6. 灰褐色上
  7. 淡灰褐色上(砂礫)
  8. 淡灰褐色上(砂礫)
  9. 赤褐色上
- ▼ E-21
1. 表土
  2. 暗褐色上
  3. 灰褐色上
  4. 淡褐色上
  5. 暗褐色上
  6. 灰褐色上
  7. 淡灰褐色上(砂礫)
  8. 淡灰褐色上(砂礫)
  9. 赤褐色上
- ▼ E-22
1. 表土
  2. 暗褐色上
  3. 淡灰褐色上
  4. 暗褐色上(上部に Fe 付塊状物あり)
  5. 暗褐色上
  6. 暗褐色上(植物遺体)

▶ 図 26 E 区 柱状図 3

- ▼ E-24
1. 灰土
  2. 灰褐色土
  3. 灰褐色土
  4. 灰褐色粘質土
  5. 灰褐色粘質土
  6. 灰白色粘質土
  7. 灰白色粘質土(植物遺体付)
  8. 灰白色粘質土
  9. 淡黄色粘質土(包含層)
  10. 淡黄色粘質土
  11. 暗灰色粘質土
  12. 暗灰色粘質土
- ▼ E-25
1. 灰土
  2. 灰褐色土
  3. 灰褐色土
  4. 灰褐色粘質土
  5. 暗褐色粘質土(植物遺体付)
  6. 暗褐色粘質土(植物遺体付)
  7. 暗灰色粘質土
  8. 暗灰色粘質土
  9. 暗灰色粘質土
- ▼ E-26
1. 灰土
  2. 暗褐色土
  3. 暗褐色土
  4. 暗褐色粘質土
  5. 暗褐色粘質土(包含層)
  6. 暗褐色粘質土(包含層)
  7. 暗褐色粘質土(包含層)
  8. 暗褐色粘質土
  9. 暗褐色粘質土
- ▼ E-27
1. 灰土
  2. 暗褐色土
  3. 暗褐色粘質土
  4. 暗褐色粘質土
  5. 暗褐色粘質土
- ▼ E-28
1. 灰土
  2. 暗褐色土
  3. 灰褐色土
  4. 灰褐色粘質土
  5. 灰褐色粘質土
- ▼ E-29
1. 灰土
  2. 暗褐色土
  3. 暗褐色粘質土
  4. 暗褐色粘質土
  5. 暗褐色粘質土
- ▼ E-30
1. 灰土
  2. 暗褐色土
  3. 暗褐色粘質土
  4. 暗褐色粘質土
  5. 暗褐色粘質土
- ▼ E-31
1. 灰土
  2. 暗褐色土
  3. 暗褐色土
  4. 暗褐色粘質土
  5. 暗褐色粘質土
  6. 暗褐色粘質土
- ▼ E-32
1. 灰土
  2. 暗褐色土
  3. 暗褐色土
  4. 暗褐色粘質土
  5. 暗褐色粘質土(包含層)
  6. 暗褐色粘質土(包含層)
  7. 暗褐色粘質土
- ▼ E-33
1. 灰土
  2. 暗褐色土
  3. 暗褐色土
  4. 暗褐色粘質土
  5. 暗褐色粘質土(包含層)
  6. 暗褐色粘質土(包含層)
  7. 暗褐色粘質土
- ▼ E-34
1. 灰土
  2. 暗褐色粘質土
  3. 暗褐色粘質土
  4. 暗褐色粘質土
  5. 暗褐色粘質土(植物遺体付)
  6. 暗褐色粘質土(植物遺体付)
- ▼ E-35
1. 灰土
  2. 灰褐色土
  3. 灰褐色粘質土
  4. 灰褐色粘質土
  5. 暗褐色粘質土(植物遺体付)
  6. 暗褐色粘質土(植物遺体付)
  7. 暗灰色粘質土
- ▼ E-36
1. 灰土
  2. 灰褐色土
  3. 灰褐色粘質土
  4. 暗褐色粘質土
  5. 灰褐色粘質土
  6. 灰褐色粘質土(植物遺体付)
- ▼ E-37
1. 砂作土
  2. 灰褐色土(灰土)
  3. 灰褐色粘質土
  4. 暗褐色粘質土
  5. 暗褐色粘質土
- ▶ 図 27 E区 柱状図 4



▶ 図28 E区 出土遺物実測図

中野地区 当該地区はこれまでの試掘確認調査によって埋蔵文化財が比較的良好に残存することが知られている地点である。今次調査ではE-31～E-33の3つのトレンチを設定して残存状況を調査した。3つのトレンチ全てで包含層および遺物を確認したが、とくにE-31では良好な遺物の出土を確認している。図28に示す、須恵器杯(52、53、54)等が層中に含まれており、当該包含層が古墳時代に堆積した層位であることがわかる。同時に、出土状況から概ねプライマリな状態が維持されているものと思われるため、周辺に生活面の痕跡が残存する可能性が高いことも指摘できる。

#### ▼まとめ

今回の調査では、3つの地区について調査を実施した。結果として、ナルザキハナ丘陵先端部上には埋蔵文化財が残存していないこと、東澤・ノジリ地区には部分的ではあるが丘陵際に包含層を確認できる地点が存在すること、中野地区には明確な包含層が存在すること等が明らかとなった。

東澤・ノジリ地区で埋蔵文化財の分布が希薄であるのは、ハギノ森丘陵とナルザキハナ丘陵にはさまれた谷地形に位置するという、立地上の要因に左右される現象ではないかと考えられる。ハギノ森丘陵をはさんで西に位置するホウシボウ地区では、比較的良好な包含層が確認されることと対照的である。なお、東澤に設定したE-14では弥生時代の包含層ではないかと思われる層位を確認している。周辺では弥生時代の包含層を明確にとらえていない現状では、近隣の調査時には注意が必要である。

中野地区での調査は、既知の調査成果を追認する結果となった。しかし、同地区においては弥生時代の包含層も一部で明確に残存しており、弥生時代の包含層の広がりはまだ正確にとらえていないと言えず、今後の課題である。

## 古津賀遺跡群 (F区: 2001002)

所在地	古津賀 1307-1
調査期間	2001.6.15 ~ 2001.6.26
調査原因	土地区画整理事業
調査面積	24 m <sup>2</sup> (406 m <sup>2</sup> )
時代	弥生時代、中近世
調査種別	試掘確認調査



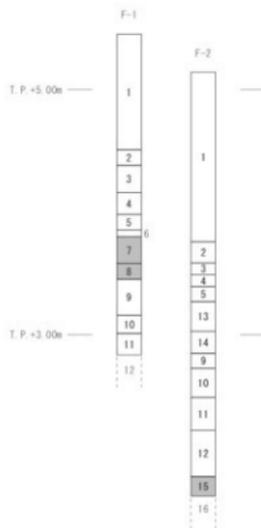
▶ 図 29 調査地点位置図

### ▼調査の経過

当該調査は県道 20 号線 (下田港線) の拡幅にともなう雨水排水管設置工事に起因する試掘確認調査である。過年度の調査成果から、計画地に埋蔵文化財が残存する可能性が高いと想定されたため、取扱いの資料を得るため、試掘確認調査を実施するのはこびとなった。

### ▼調査の概要

重機を併用し、3m × 4m の試掘坑を 2 か所に設定した。図 30 で示すとおり、東側に位置する F-1 トレンチでは、中近世の包含層を、西側の F-2 トレンチでは弥生時代の包含層を確認した。中近世の包含層は遺物量も少なく、時期の特定が困難な状況である。図 30-15 層からは、器壁の摩滅が著しい土器細片が数点確認されている。黒褐色を呈する土器の胎土は、細かな砂粒を多く含んでおり、当該地域で弥生時代中期～後期にかけて盛行する在地球器の胎土と類似する。



### ▼まとめ

今回の調査で確認された包含層は、いずれの時期の層位も遺物量は希薄であった。当該地区より北側の西中野地区では、古墳時代の遺物等も多く確認されているが、今次調査では明確な古墳期の遺物を確認し得ていない。全体として、後川に近づくにつれ、遺物量は減少する傾向にあり当該調査地も北側に広がる集落域の辺縁に位置するものと考えられる。

#### ▼F-1・F-2

1. 黄土
2. 青灰色極細粒砂 (～シルト) 沼積作土
3. 暗青灰色極細粒砂 (～シルト) 沼積作土
4. 灰褐色極細粒砂 粒状に褐色中粒砂混入
5. 浅灰色極細粒砂 層面上部に鉄分が沈着する
6. 黄褐色極細粒砂 鉄分の沈着面著
7. 灰褐色細粒砂 (～極細粒砂) 弱い粘質の堆積 (中近世包含層)
8. 褐色極細粒砂 (～シルト) 弱い粘質の堆積 (中近世包含層)
9. 暗褐色極細粒砂
10. 暗灰色シルト (～粘土)
11. 青緑灰色シルト (～粘土)
12. 暗灰色粘土 (～シルト) 微細中粒砂混入
13. 灰褐色極細粒砂 (～中粒砂)
14. 褐色極細粒砂 (～中粒砂) マンガン混含む
15. 暗灰色シルト (～粘土) 粘質の堆積 (弥生～古墳包含層)
16. 暗青灰色極細粒砂 (～粘土)

▶ 図 30 F区 柱状図 (1:40)

## 古津賀遺跡群 (G区: 2001003)

所在地 古津賀字東池ノ和タ、池ノ和タ、北大久保、  
南春日田

調査期間 2001.8.27 ~ 2001.11.14

調査原因 土地区画整理事業

調査面積 315 m<sup>2</sup> (40,900 m<sup>2</sup>)

時代 弥生時代、古墳時代、中近世

調査種別 試掘確認調査



▶ 図31 調査地点位置図

### ▼ 調査の経過

当該調査は、古津賀土地区画整理事業による造成工事に先立って実施された試掘確認調査である。当該地点は、弥生時代後期の集落跡を確認した東ナルザキ丘陵の裾部に広がる谷地形で、これまで埋蔵文化財の残存状態について知見の得られていない地域であった。なお、調査対象地域は、調査当時水田として利用されており、調査は収穫の終わる8月末から着手した。

### ▼ 調査の概要

当該調査では、対象範囲に対して、4m × 4m 程の試掘坑を 33 箇所設定した。

調査区内における堆積状況は、一部丘陵裾部分に設定したトレンチを除き、概ね類似した堆積が観察される。最上層には現代の耕作土が堆積し、この下にグライ化したシルト層が互層に堆積する。図 33、図 35 の柱状図には個別のトレンチごとに観察される層位を記載しているが、全体として層序を整理すると下記の 5 層に大別できる。

- I 現在の耕作土
- II 灰色シルト(～粘土)層
- III 褐色極細粒砂層(遺物を微量包含する層位有)
- IV 青灰色粘土層
- V オリーブ灰色粘土層

水田は南側の国道 56 号線にむかって徐々に下っており、南よりのトレンチに II、III 層が厚く堆積する傾向が看取され、谷の中心部分に近づくにつれて掘削時の湧水も顕著になる。

今次調査では、多くのトレンチを設定したが、遺物や遺構を確認し得たのは G-1、2、5、10、11、13、32 の 7 つのトレンチである。以下では説明が煩雑になるのを防ぐため、埋蔵文化財を確認したトレンチについて遺物や遺構の状況を記述することとする。

G-1 ナルザキハナ丘陵東斜面に設定したトレンチである。このトレンチは他所と異なり、水田面より約 3m 程高所に位置しており、狭小な平坦面が形成されている。堆積状況は、表土直下に黄褐色シルト層が堆積し、丘陵の岩礫層が現れる。黄褐色シルト層の一部にわずかながら遺物が含まれている。

この黄橙色シルト層上で土坑1基を検出した。土坑付近では、弥生時代中期末～後期以降の所産と考えられる土器片が出土しており、当該遺構も概ね該当期に属するものと考えられる。堆積の状況から、遺構の広がりが南へ続くものと考えられるが、近世以降に削平をうけ残存しない。なお、確認のため水田面までトレンチを拡張して斜面を調査した。裾部で土師器片、須恵器片が出土するが、遺構等は検出されていない。図32-65は土坑近くで出土した、肩部に櫛描沈線が数条と微隆起突帯1条、および円形浮文の貼付が観察される南四国型甕である。

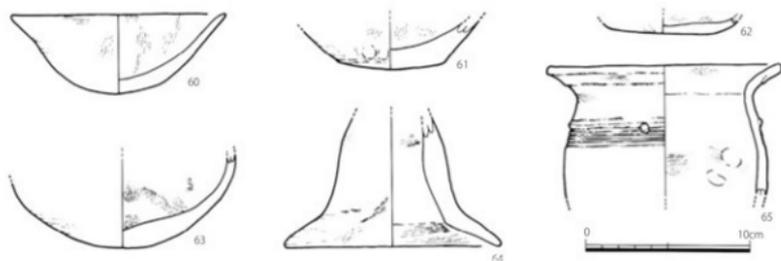
G-2 二股にわかれたナルザキ丘陵の最奥部、丘陵裾に設定したトレンチである。G-1に類似した狭小な平坦面であったが、遺物・遺構ともに確認されていない。G-1と同様、裾部で図32にしめす、60、64、62などの椀や高坏、底部片を含む土師器片、須恵器片が出土する。

G-5 調査区最南端に位置するトレンチである。耕土より20～30cm下で遺物包含層を確認した。古墳時代の所産と考えられる土師器細片が出土している。

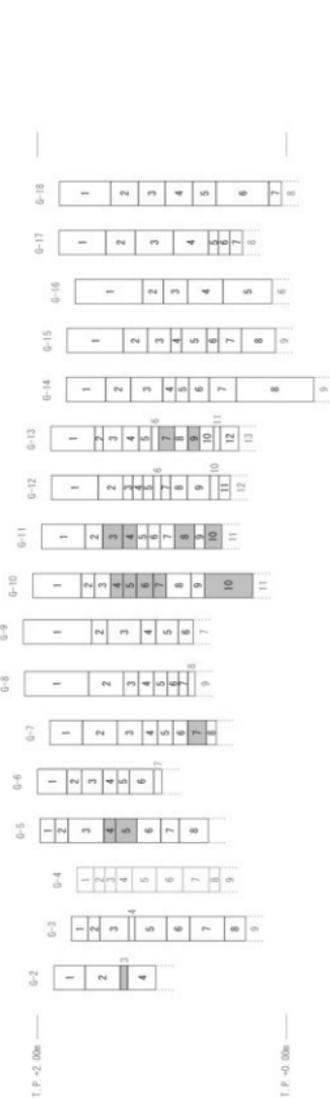
G-32 東ナルザキ丘陵の西斜面に設定したトレンチである。この地点も斜面途中に非常に狭小な平坦部が存在し、黄橙色シルト層上面で直径がおおよそ3mほどのプランをもつ土坑を確認した。楕円形をなすものと思われるが、トレンチ外へ続くため全体の形状はあきらかでない。深さは最大で67cmほどをはかる。土坑の南側は円形の攪乱により削平をうけている。北側で直径20cm、深さ30cm弱ほどの柱穴も確認されているが、遺構が残存するのはこの個所のみで、G-33等の状況をみかぎり周辺に広がるものではないように考えられる。遺物は弥生時代～古墳時代の所産と考えられる細片が出土しているが、摩滅が著しく時期の判定は難しい。

## ▼まとめ

今回の調査では、調査の主対象であった水田域には埋蔵文化財の分布は認められなかった。遺構・遺物が確認されたのは、丘陵の裾部に位置するトレンチ(G-2、10、11、13)および丘陵下部(G-1、32)が主体となる。出土の状況から考えて、原位置をとどめているものとは考え難く、丘陵上部から流出したものと考えられる。しかし、第3次調査では丘陵上部平坦面に展開するのは、弥生時代中期末から後期にかけての集落址であり、古墳時代の遺物・遺構はほとんど知られていない。当該時期の集落域については今後注意が必要である。



▶ 図32 G区 出土遺物実測図



- ▼ G-2
1. 1階上
  2. 1階上
  3. 10Y86/1 緑灰色シルト(～輪軸状砂) 均質な堆積層 厚が多少異なる
  4. オリーブ色シルト φ5～10mm の細砂混入、炭化物含む(炭質砂)
  5. 青灰色泥状砂(～中粒砂) φ2～20mm の細砂混入、炭質層

- ▼ G-3
1. 1階上
  2. 1階上
  3. 10Y86/1 緑灰色シルト(～輪軸状砂) に、10Y84/4 緑色輪軸状砂が混在に混入、炭質少量含む
  4. 10Y86/1 緑灰色シルト(～シルト) 層厚面上部に炭質混入、炭質少量含む
  5. 10Y84/4 緑色シルト(～輪軸状砂) 炭質少ない、旧砂層
  6. 10Y84/4 緑色シルト(～粘土) 均質な堆積層 炭質混在物含む
  7. 10Y83/1 黒色シルト(～輪軸状砂) 植物遺体・炭化物含む
  8. 5Y6/2 灰オリーブ色粘土(～シルト) 少量細砂混在
  9. 5Y6/2 灰オリーブ色粘土(～シルト) 中～上硬化が認められる

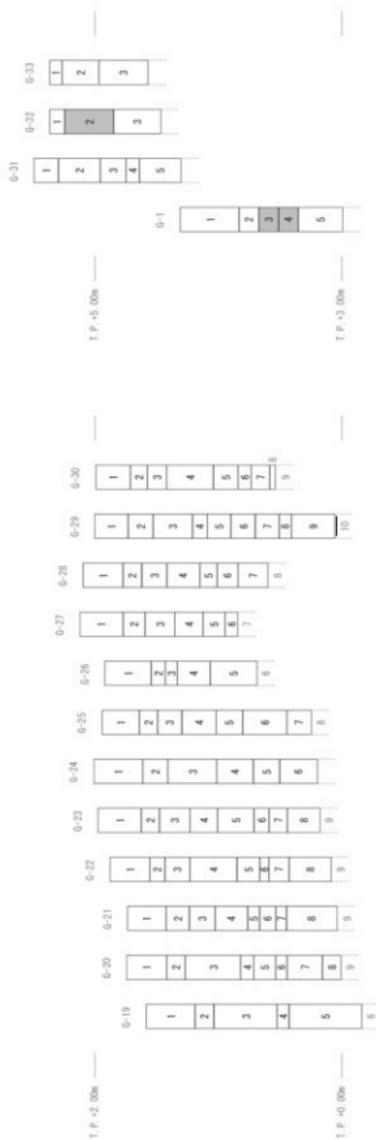
- ▼ G-4
1. 1階上
  2. 1階上
  3. 10Y86/1 緑灰色シルト(～輪軸状砂) 均質な堆積層
  4. 10Y86/1 緑灰色シルト(～シルト) 層厚面上部に炭質混入、炭質少量含む
  5. 10Y84/4 緑色シルト(～輪軸状砂) 炭質少ない、旧砂層
  6. 10Y84/4 緑色シルト(～粘土) 均質な堆積層 炭質混在物含む
  7. 10Y83/1 黒色シルト(～輪軸状砂) 植物遺体・炭化物含む
  8. 5Y6/2 灰オリーブ色粘土(～シルト) 少量細砂混在
  9. 5Y6/2 灰オリーブ色粘土(～シルト) 中～上硬化が認められる

- ▼ G-5
1. 1階上
  2. 1階上
  3. 10Y86/1 緑灰色シルト(～輪軸状砂) に、10Y84/4 緑色輪軸状砂が混在に混入、2層との境界面から堆積物上に出(炭質砂)
  5. 10Y86/1 緑灰色シルト(～輪軸状砂) 均質な堆積層 炭質少量含む 炭質混在物含む(炭質砂)
  7. 5Y6/2 灰オリーブ色粘土(～シルト) 少量細砂混在
  8. 5Y6/1 灰色粘土 均質な堆積層

- ▼ G-6
1. 1階上
  2. 1階上
  3. 10Y86/1 緑灰色シルト(～輪軸状砂) 均質な堆積層
  4. 10Y86/1 緑灰色シルト(～輪軸状砂) マンガノ層 20%
  5. 10Y84/1 緑灰色 10Y83/2 黒色緑色輪軸状砂(～輪軸状砂) 炭質少量含む 炭質混在物含む(炭質砂)
  6. 10Y83/2 黒色輪軸状砂(炭質砂) 炭質混在物少量含む
  7. 5Y6/1 灰色粘土(～シルト) 炭質混在物少量含む
  8. 5Y6/1 灰色粘土(～シルト) 炭質混在物少量含む

▶ 図 33 G 区 柱状図 1 (1:40)





▶ 図 35 G区 柱状図 3 (1:40)



## 古津賀遺跡群 (H区: 2002003)

所在地	古津賀字西中野
調査期間	2002.8.19
調査原因	土地区画整理事業
調査面積	18 m <sup>2</sup> (165 m <sup>2</sup> )
時代	—
調査種別	試掘確認調査



▶ 図37 調査地点位置図

### ▼ 調査の経過

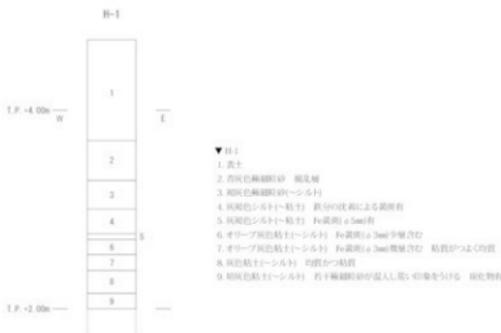
当該調査は古津賀土地区画整理事業の一環として計画された、雨水排水管設置箇所に対する試掘確認調査である。

### ▼ 調査の概要

施工範囲を勘案してH-1トレンチ1箇所を設定した。堆積状況はこれまでの調査成果と酷似した状況を呈している。東側では遺物を包含していた層位と対応する堆積からも遺物は確認されていない。

### ▼ まとめ

今回の調査では、古津賀遺跡群の西中野地区について遺物・遺構の分布についてその辺縁を知ることができた。既知の調査結果とあわせて考えると、各期の集落は現在の県道下田線にいたるまでに一旦途切れてしまうようである。この現象を集落の範囲と考えるべきか、後世の地形の変容によって包含層等が失われてしまった結果であるのかは現段階では判断し兼ねる状況である。下田港線以西の状況が今後明らかになってくれば、これらの問題を検討する資料が提示できるようになる。



▶ 図38 H区 柱状図 (1:40)

## 古津賀遺跡群 (1区: 2002004)

所在地 古津賀字尾崎ノハナ 1894  
 調査期間 2002.8.5 ~ 2002.8.20  
 調査原因 土地区画整理事業  
 調査面積 126 m<sup>2</sup> (336 m<sup>2</sup>)  
 時代 弥生時代、古墳時代、中世  
 調査種別 試掘確認調査



▶ 図 39 調査地点位置図

### ▼ 調査の経過

当該調査は、古津賀古墳東側の市道に土地区画整理事業に伴う雨水排水管新設事業が計画立案され、工事に先立って実施された試掘確認調査である。工事予定地は市指定文化財古津賀古墳に近接しており、周囲の立会調査においても良好な包含層が確認されていた。

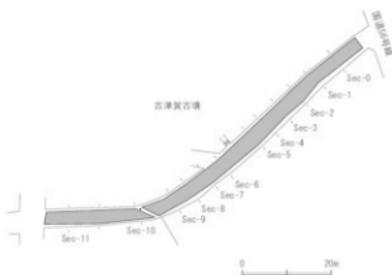
### ▼ 調査の概要

古津賀古墳丘陵築造時に利用した丘陵の一部が今回の調査でも確認された。市道設営時に丘陵の一部は掘削されているようであるが、黄色の丘陵基盤層が概ねすべてのトレンチで確認されている。基本層序は表土を除いて以下の6層に大別できる。

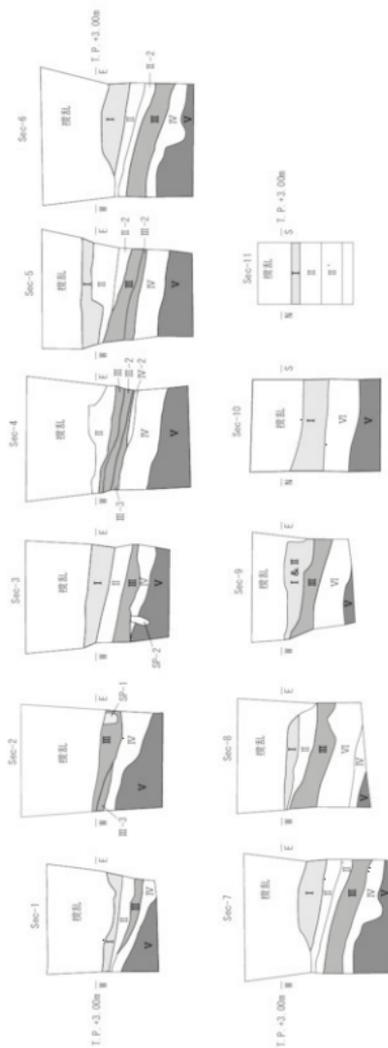
- I 褐灰色粘質層 包含層(古墳期)
- II 褐灰色粘質層 微量遺物が含まれる。I層より若干褐色が強く粘質。遺物微量含む。
- III 暗褐色粘質層 φ 3mm程度の細礫が多く含まれる。V層のブロック(φ 3-5mm)が多く含まれる。堅緻な粘質を呈し、遺物は含まれない。
- IV 灰色粘質層 φ 2-5mm程度の細礫が少量含まれる。黄灰〜青灰色に変化する。
- V 黄色粘質層 丘陵の基盤層。φ 2-5mm程の細礫を多く含み締まっている。
- VI 明褐色粘質層 II層に似るがV層に含まれる細礫(φ 2-5mm)が微量混入する。

(各層は堆積した上から順に記載)

土層断面を記録したセクションは合計13箇所設定したが、南の2箇所(セクション10と11の間)は掘削中に崩落し、記録をとることができなかった。セクションは調査をおこなった北から順に番号を振っており、すべて北側の断面を記録している。各セクションの状況を概観すると北側が高く南東へむかって落ちていく様子が確認できる。この斜面堆積のな



▶ 図 40 セクション位置図 (1:1000)



- 1. 褐色粘質層 包含層(点描画)
- 2. 褐色粘質層 微量遺物が含まれる I層より若干褐色が強くなり、遺物も豊富
- 3. II層に等しいが若干褐色が強くなり、遺物も豊富
- 4. 褐色粘質層 0.2~5mm程度の塊状の微細な層が混入する
- 5. II層より若干褐色が強くなり、遺物も豊富
- 6. II層より若干褐色が強くなり、遺物も豊富
- 7. II層より若干褐色が強くなり、遺物も豊富
- 8. II層より若干褐色が強くなり、遺物も豊富
- 9. II層より若干褐色が強くなり、遺物も豊富
- 10. II層より若干褐色が強くなり、遺物も豊富
- 11. II層より若干褐色が強くなり、遺物も豊富

▶ 図 41 1区 断面図 (1:80)

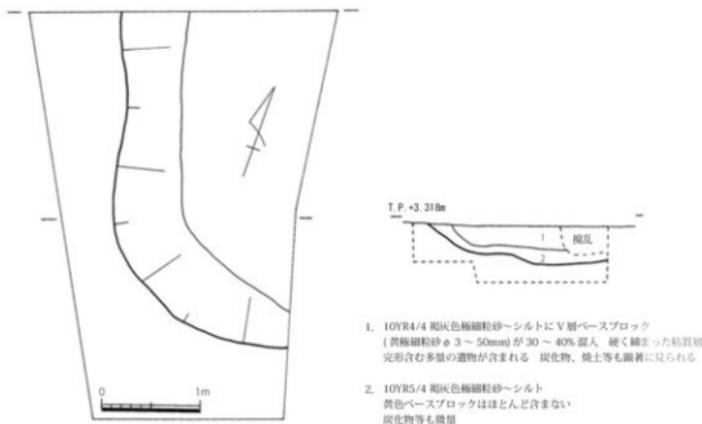
かでⅢ層をベース層にして遺構面が形成されており、少ないながらSX-1 およびSP-1等の明確な遺構を検出している。

遺物の出土量はセクション8以北のトレンチの1層からのものが多い。セクション8以北のトレンチにおいてはⅢ層の堆積が厚く、層として安定していることが共通点として挙げられる。これに対してセクション9以南ではⅢ層はやや明るい褐色の粘質層に漸次的に変質し、セクション10以南では観察されなくなってしまう。このⅢ層の消長に対応するように遺物量も南側で減少し、セクション11付近では1層は確認されるものの遺物は全く見られなくなる。このような現象からⅢ層が遺物・遺構および包含層のメルクマールになるものと考えられる。

今回の調査では広範囲に面と層位を確認することができなかつたため諸々の現象を解釈することは難しいが、Ⅲ層に含まれるブロックや焼土の混入状況、調査地点の立地などを考慮すると、この堆積が人為的なものである可能性も捨てきれないと思われる。

SX-1(図42) セクション1周辺で確認された土坑で、楕円形を呈する。遺構は調査区外へ続くためその全体は明らかでないが、深さ40cmほどが残存している。今回の試掘確認調査でもっとも良好な遺物を出土した遺構である。埋土は黄色極細粒砂(地山ベース層)ブロックを含む褐色極細粒砂で、黒褐色を呈するⅢ層上面では明確に輪郭を追うことができる。焼土や炭化物等も含まれることから出土した遺物は裏が中心で高環脚部等が含まれる。セクション6～8付近で手捏ね土器などが多く出土することと対照的である。

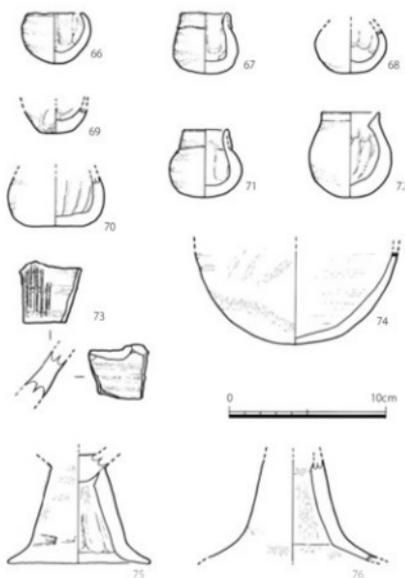
SP-1 セクション2の断面で確認された柱穴で、残存する深さが約30cmをはかる。埋土はⅠ層およびⅡ層に近い明褐色の粘質を呈し、硬くしまっている。明確に検出できるのはⅢ層上面からである。遺物は出土していないが、層位から古墳時代の所産と推測される。他のトレンチにおいても検出可能な場所では面を精査し遺構検出につとめたが、この他に明確な遺構は確認できなかった。



▶ 図42 Ⅰ区 SX-1平面図(1:50)

SP-2 セクション3においてIV層上面から確認されるものであるが、形もいびつで遺構とは断定しがたい。III層自体が包含層ではないなどを考慮すると植物の根などによる変質の可能性も高い。

出土した遺物 前述したように調査地点の立地が古墳の裾部ということもあり、手捏ね土器や高環などが多く出土した。特に古墳の開口部に近づくセクション6からセクション8にかけては手捏ね土器が多く出土し、古墳に伴う祭祀等がおこなわれていたであろうことが推測される。古津賀古墳が古墳時代後期の所産であるにもかかわらず、遺物のほとんどが土師器であり、須恵器は破片が10点にも満たないほどしか出土しない。出土した遺物の大部分は古墳時代に属するものであるが、セクション7付近で弥生時代中期の土器(図44-77～79、83、86)が数点と石鏃(90)、叩き石(92)等が出土している。セクション

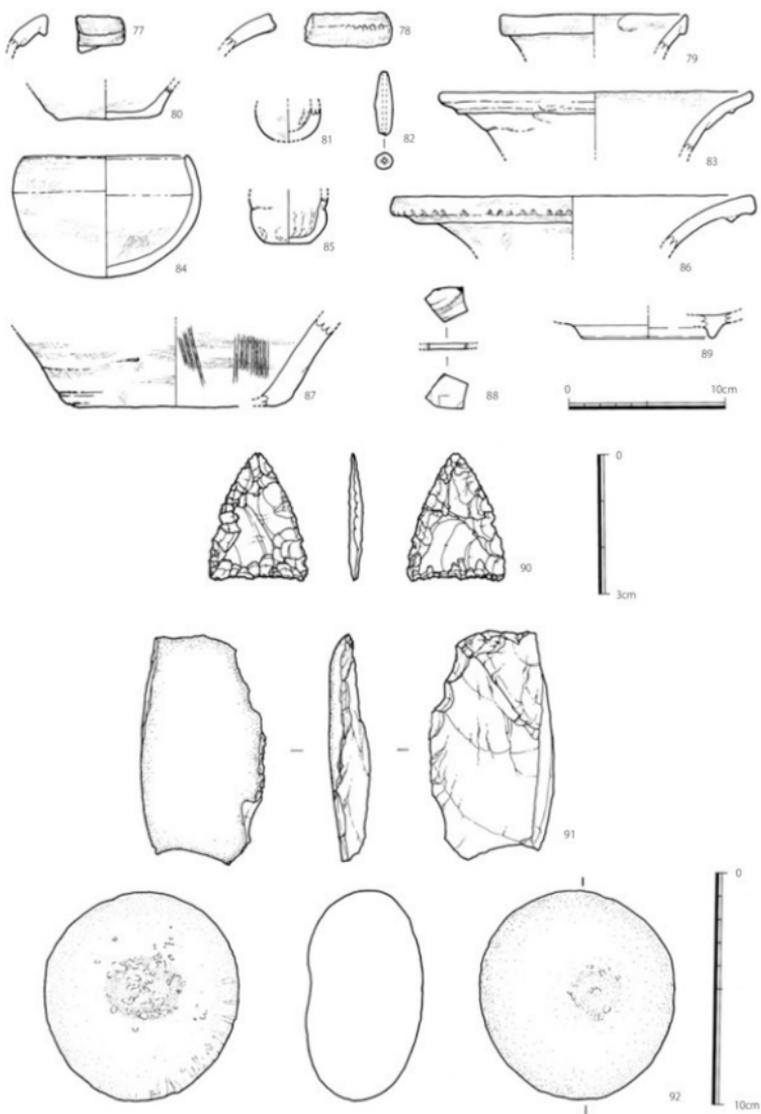


▶ 図43 1区 出土遺物実測図1

7の断面では東側の層位が若干荒れているため、混入したものである可能性が高いが、いずれにしても弥生時代の集落が周辺に存在することは留意すべきであろう。

#### ▼まとめ

今回の調査では古津賀古墳東裾部にトレンチを設定して調査をおこなった。これにより古墳東側の裾部分には良好な包含層および遺構が残存していることが明らかとなった。特に古墳開口部へ近づくにつれて祭祀関連の遺物が多く出土すること、墳丘の最も裾にあたる層の確認ができたことは大きな成果であった。また、量は少ないが弥生時代の遺物が出土したことから、周辺に西中野地区とは距離をおいた中期の集落があることが想定される。調査範囲が狭かったため遺構の分布状況や各層の状況などについては今後課題が残るが、今回の調査結果を踏まえて開発時には埋蔵文化財に対して十分な注意が必要である。



▶ 图 44 1区 出土遺物実測図 2

## 古津賀遺跡群 (J区：200210)

所在地 古津賀字春日田、池田、尾崎ノハナ、廣岡、  
正分、ヲツケバ、佛崎、八人帳、北ナカレ田、  
神母谷、ナガレダ、傅七谷、コエノ下、  
戸板口、戸板タ、南戸板タ

調査期間 2002.8.5 ~ 2002.8.20

調査原因 土地区画整理事業

調査面積 640 m<sup>2</sup> (88,200 m<sup>2</sup>)

時代 弥生時代、古墳時代、中世

調査種別 試掘確認調査



▶ 図45 調査地点位置図

### ▼ 調査の経過

当該調査は、平成13年度に引き続いて実施が予定される土地区画整理事業に伴う造成工事実施に先立つ試掘確認調査である。平成13年度には今回の試掘範囲の南側で試掘確認調査を行っている(G区)が、丘陵西斜面の裾付近で遺構を確認した他は現水田で遺構・遺物は確認していない。

### ▼ 調査の概要

調査対象地内に調査トレンチを53箇所設定した。表土層を重機によって除去したのち、人力を併用し、遺構・遺物の発見に努め、基本層序の確認、土層実測図等の作成・写真撮影を行った。

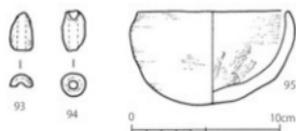
**基本層序** 層序は国道を隔てて北と南でやや状況が異なる。地理的にも若干距離があるので、南北に大別して基本層序を整理する。

国道56号線以北では耕土を除去すると青緑灰色シルト層、褐灰色シルト層、青灰色シルト層が順に堆積しており、J-12以北の高所に位置するトレンチでは最下層に青灰色砂礫層が確認できる。層序はばらつきが少なく、大きな変化をせずに北から南に緩やかに下っている。概ねすべてのトレンチで暗褐色の植物遺体を多く含む粘質層(図47-10層)が確認されており、この腐植層をメルクマールとして各層の比較を行うことができる。

次に、国道以南の状況であるが、南半のトレンチでも上述した腐植層に似る堆積が認められる(図49-10層)。レベルから考えて概ね対応する層と考えてよいのではないと思われる。しかし、これらの腐植層は攪乱が深い箇所では削平されて残存していない。南半を通して確認できる層は青灰色粘土層に黄色斑が見られる粘質土で(図49-5層)、遺物が微量ながら確認される層でもある。しかし、5層から出土する土器はいずれも磨耗が著しく、元位置を保ったものではないものと考えられる。5層以下では青緑灰色シルト層が堆積し、暗灰色シルト層へ変質する。これより下層には灰色と暗灰色の粘土層が交互に堆積し、人為的な痕跡は認められない。

調査地点は国道をはさんで北側の谷部水田域(北半)と軌道北側水田域(南半)の2区に大別できる。

トレンチ番号では J-1 ～ J-17 まだが北半に、J-18 ～ J-53 まだが南半に属する(図 45)。今回の調査においてはいずれのトレンチにおいても明確な遺構・遺物は確認できなかった。以下では、わずかながら遺物を確認したトレンチ(J-1、18、27、30、31、39)のうち主要なものについてその様相を記すこととする。



▶ 図 46 J区 出土遺物実測図

J-1 東ナルザキ丘陵の北裾部に位置するトレンチで、他の水田より 2m 以上高い位置にある。1 層の暗褐色極細粒砂層より土錘破損品(93)が 1 点確認されているがその他の遺構・遺物は確認できない。丘陵にはさまれた谷部に位置しており、上方から遺物が流入したものと考えられる。

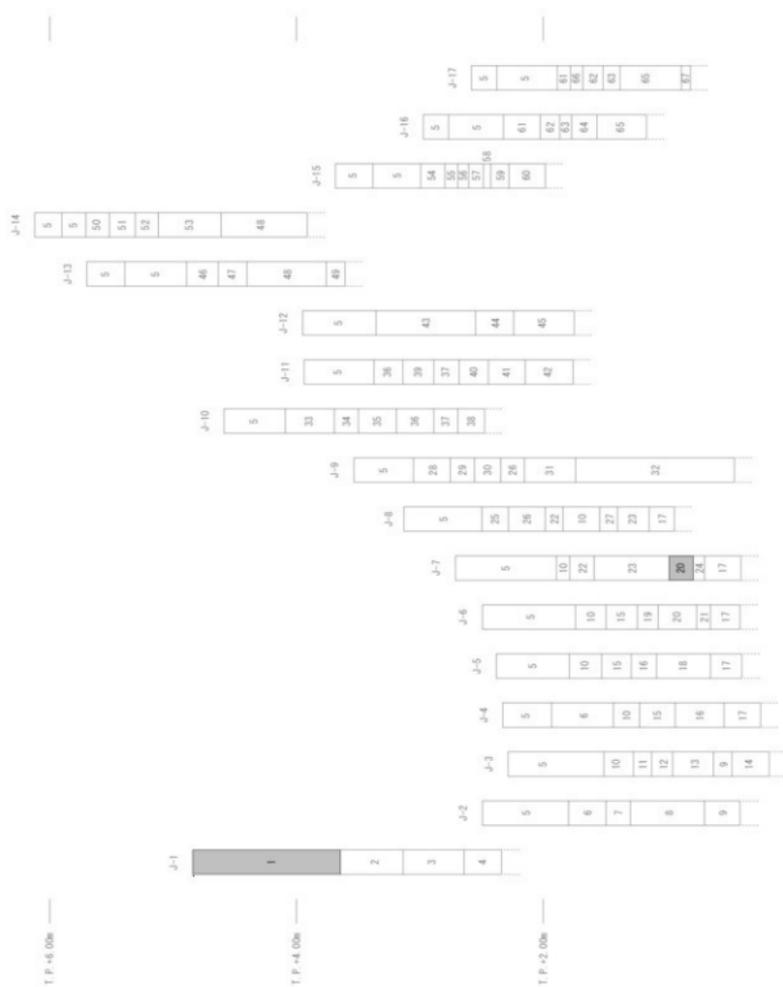
J-18 調査区南半の西端に位置するトレンチである。腐植層の下に褐灰色シルト層が堆積し、その下に青灰色粘土に黄色の斑文が沈着する粘土層が確認できる。この粘土層(5 層)は南半地区で押し並べて確認できる層であり、遺物はこの層から出土する。5 層から出土する遺物も摩滅が顕著で堆積時に流入したものであろうと考えられる。

J-27 南半地区の中央付近に位置するトレンチである。堆積状況に大きな変化はないが、J-18 ではみられなかった黄灰色(～明褐色)シルト層(15 層)が見られる。15 層も南半地区では普遍的に見られる層である。遺物は 5 層より土器破片が 1 点のみ出土する。

J-30 南半地区の北西端に位置するトレンチである。今回の調査では最も古津賀古墳に近いトレンチで、明確な包含層や遺物の出土が期待されたが、土器破片 1 点と土錘破損品(94) 1 点が出土したのみである。確認した層序は耕土直下の 23 層である。23 層は耕土の影響を大きく受ける層位であり、遺物は元位置を保ったものではない。

## ▼まとめ

今回の調査では合計 53 箇所のトレンチを設定し遺構及び遺物の確認を行ったが、明確な遺構・遺物を確認しなかった。北半については昨年度の調査結果(G 区)と大きな齟齬はなく、丘陵にはさまれた谷部分の堆積が確認されている。南半については今回初めて掘削する地点であったが、緩やかに南に下る堆積が確認されるのみで明確な遺構・遺物は検出しなかった。数箇所のトレンチで暗灰粘土層以下の堆積も確認したが、人為的な痕跡は確認していない。古津賀古墳前の試掘(I 区)の状況と比較すると、古墳に近づくにつれて褐色極細粒砂層が厚くなり、炭化物や焼土などが確認されるが、J-30 まで離れると安定した自然堆積となり、そのような状況は古墳の周辺においてのみであることがわかる。遺物は概ね南半地区の 5 層から出土しており、遺物の観察から 5 層は古墳期以降の堆積であることが推測される。同様に古墳時代の所産である古津賀古墳前の試掘(I 区)で確認した包含層と 5 層の関係は未だ明らかでない。古墳前の包含層は暗褐色のシルト(～極細粒砂)で硬く締まった層であったのに対し、今回の試掘で遺物を確認している 5 層は青灰色の粘土層である。両者の関係が明らかになれば古墳付近の堆積が正確に評価できるものと思われる。



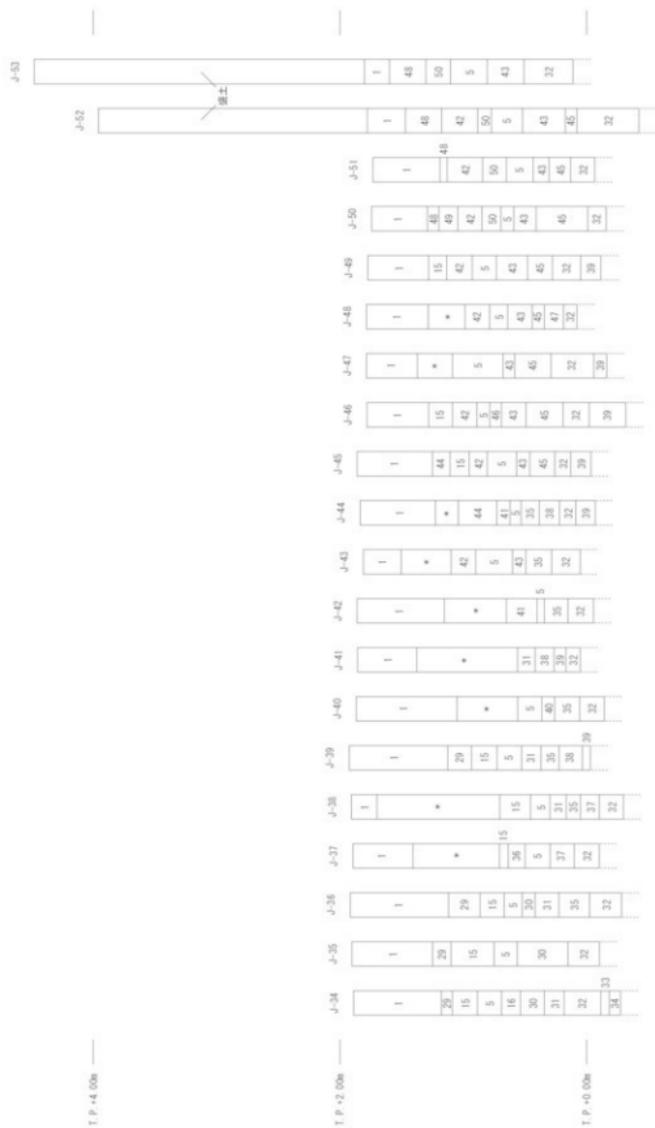
▶ 図 47 J 区 柱状図 1 (1:40)

1. 埋青色極細砂 (～シルト)
2. 埋青色土φ10～30mm程度の埋蔵土
3. 埋青色粗砂 (～極細砂)
4. 埋青色砂
5. 砂質土
6. 灰色シルト (～粘土)
7. 細砂質土 (～シルト) 細砂質土
8. 灰色中粒砂 (～粗粒砂) 少量埋蔵土とシルト質土
9. 埋青色極細砂 少量灰色シルトおよび青灰色中粒砂質土 (埋蔵層)
10. 埋青色極細砂 少量灰色シルト土 (埋蔵層)
11. 青灰色極細砂 (～極砂) (砂質層)
12. 埋青色シルト (～粘土) 埋蔵層砂等を含む (埋青色シルト層)
13. 埋青色シルト (～粘土) (埋青色シルト層)
14. 埋青色シルト (～粘土) 埋蔵層土層 (埋青色シルト層)
15. 埋青色シルト (～粘土) 均質な粗粒質
16. 青灰色シルト (～粘土) 均質な粗粒質
17. 埋青色シルト (～粘土) 細砂、灰化埋蔵土、少量埋蔵土層
18. 埋青色シルト (～極細砂) 均質な粗粒質 埋蔵層埋蔵土
19. 青灰色シルト (～粘土) に埋青色シルトが若干混入、細粒質土層
20. 青灰色土 (～シルト) 均質な粘土層
21. 埋青色極細砂 少量灰色シルト混入 (埋蔵層)
22. 埋青色極細砂の埋蔵層に青灰色中粒砂が混入
23. 埋青色シルト (～極細砂) 均質な粗粒質 埋蔵層埋蔵土の土層に混入
24. 青灰色土層 若干シルト混入
25. 青灰色土層
26. 埋青色シルト 細砂混じる 灰化層有り
27. 青灰色シルト (～粘土)
28. 埋青色シルト
29. 埋青色シルト 細粒質土層および灰化物少量混入
30. 青灰色シルト
31. 青灰色シルト少量埋蔵層土や中粒・粗粒
32. 青灰色土層φ10～30mmほどの埋蔵層
33. 青灰色シルト (～粘土) 中粒砂・粗粒砂・細砂若干混入
34. 埋青色シルト (～粘土)φ1～5mmほどの埋蔵層
35. 青灰色土層 20%ほどシルト混入、若干粗粒を混入
36. 埋青色シルト 20% 混入
37. 埋青色シルト (～極細砂)
38. 埋青色シルト若干埋蔵混じるや中粒・粗粒質
39. 青灰色シルト～細粒質土・粗粒質
40. 青灰色シルト 均質な粗粒質
41. 青灰色シルト 粗粒質・中粒砂多く混入
42. 青灰色シルト 粗粒質・細粒質
43. 青灰色土層 混入少
44. 青灰色シルト 粗粒質・細粒質
45. 青灰色土層 粗粒砂および細砂で構成
46. 青灰色土層φ5～20mm埋蔵層
47. 青灰色土層φ3～5mm埋蔵層
48. 青灰色土層φ20～30mm埋蔵層 若干シルト含む
49. 青灰色シルト (～粘土) 均質な粗粒質
50. 灰色シルト 灰色土層φ20～30mm含む 混雑した細粒質土層埋蔵層
51. 灰色シルト φ3～10mm埋蔵層
52. 埋青色シルト層 細粒質土層
53. 青灰色シルト (～粘土) 埋蔵層埋蔵土
54. 埋青色極細砂 細粒質土層 (埋蔵層)
55. 青灰色シルト (～粘土) 細粒多く含む
56. 青灰色土層 砂質層
57. 埋青色極細砂 細粒質土層 (埋蔵層)
58. 埋青色シルト (～粘土) 細粒質土層
59. 青灰色土層 細粒質土層
60. 青灰色シルト (～粘土) 埋蔵層中粒砂混入
61. 埋青色極細砂 細粒質土層 (埋蔵層)
62. 青灰色土層 (埋蔵層シルト層) 埋蔵層
63. 埋青色極細砂 細粒質土層 埋蔵層青灰色中粒砂が混入する
64. 青灰色土層
65. 埋青色シルト (～粘土)
66. 灰色シルト (～粘土) 細粒質土層
67. 青灰色土層

▶ 図 48 J区 柱状図 2



▶ 図49 J区 柱状図3 (1:40)



▶ 図 50 J区 柱状図 4 (1:40)

31. 青灰色粘土（～シルト）
32. 褐色粘細砂（～シルト） 動物遺体微量含む（固結層）
33. 黒褐色粘土（～シルト） 黄褐色砂層入
34. 灰褐色シルト層
35. 青灰色粘土（～シルト）
36. 青灰色粘土（～粘土） 均質
37. 青灰色～褐色シルト（～粘細砂） 動物遺体少量混入、粘質
38. 青灰色粘土（～シルト） やや黄色色を呈するシルト層、粘質
39. 褐色粘土 均質な粘質層、動物遺体なし
40. 褐色粘土（～シルト） 10層と対応するものと考える
41. 青灰色シルト（～粘土） 均質な粘質層
42. 青灰色粘土（～シルト） 均質な粘質層 部分の沈積が分られる
43. 褐色粘土（～シルト） 均質な粘質層
44. 灰色シルト（～粘土） 均質な粘質層
45. 褐色シルト（～粘土） 均質な粘質層、微細動物遺体含む
46. 青灰色シルト
47. 青灰色シルトに褐色シルトが混入層入
48. 黒褐色シルト（～粘細砂的） 泥、粘質
49. 青灰色粘土（～シルト）
50. 青灰色粘土 均質な粘質層

\*は粘土採取等による副産物

1. 粘土上
2. 褐色粘細砂（～シルト） 動物遺体微量含む（固結層）
3. 褐色シルト（～粘土） 黄褐色砂層等含む（褐色シルト層）
4. 褐色粘細砂（～シルト） 動物遺体微量含む
5. 青灰色シルト（～粘土） に黄色面がみられる均質な粘土層
6. 青灰色シルト（～粘土） 均質な粘質層
7. 褐色粘土（～シルト） やや黄色色を呈するシルト層、粘質
8. 青灰色シルト（～粘土） 均質な粘質層
9. 青灰色シルト（～粘土） 黄褐色面有
10. 褐色シルト（～粘土） 均質な粘質層
11. 褐色シルト（～粘土） 均質な粘質層
12. 黄灰色シルト（～粘土） 若干粘細砂混入
13. 褐色粘土（～シルト）
14. オリーブ黄褐色（～シルト）
15. 黄灰色シルト（～粘土） 細まっただ粘質層
16. 褐色シルト（～粘細砂的） 粘質層
17. 褐色シルト（～粘細砂的） 粘質層
18. 褐色シルト（～粘土）
19. 黄灰色シルト（～粘細砂的）
20. 灰色シルト（～粘土）
21. 灰色シルト（～粘土）
22. 青灰色粘土（～シルト）
23. 褐色粘細砂（～シルト） 動物遺体微量含む
24. 褐色シルト（～粘土） 均質な粘質層
25. 灰色シルト 均質な粘質層
26. 青灰色シルト 均質な粘質層
27. 青灰色シルト（～粘土） 前に黄色面がみられる均質な粘土層、5層によく似る
28. 灰色シルト（粘細砂的含む） やや粘、粘質層
29. 灰色シルト（～粘細砂的） やや粘、粘質層
30. 青灰色粘土（～シルト） 均化物、粘質層

▶ 図 51 J区 柱状図 5

## 古津賀遺跡群 (K区: 2002012)

所在地 古津賀仮換地 32 街区 6 画外 25 画地

調査期間 2003.4.14 ~ 2003.5.2

調査原因 民間開発

調査面積 150 m<sup>2</sup> (16,187 m<sup>2</sup>)

時代 弥生時代、古墳時代

調査種別 試掘確認調査



▶ 図 52 調査地点位置図

### ▼ 調査の経過

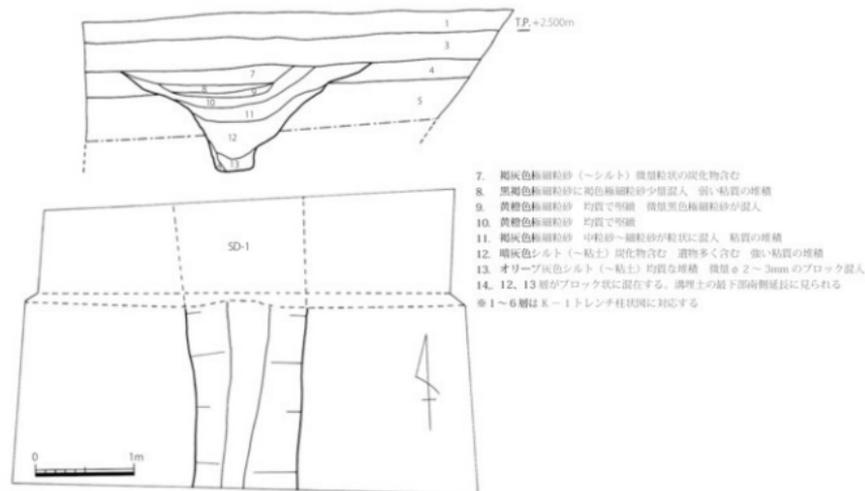
当該調査は、遊戯施設店舗新設にともなう試掘確認

調査である。周辺では試掘確認調査および、その成果に基づく本発掘調査が実施されており、その広がりを確認すべく試掘確認調査を実施した。

### ▼ 調査の概要

調査は、対象地内に試掘坑を 6 箇所設定し、表土層を重機によって除去したのち、人力を併用して遺構・遺物の発見に努めた。

当該地点は盛土層が約 2m と厚く、その下に旧耕土層、遺物包含層、還元シルト（～粘土）層の順に堆積が観察される。各トレンチの状況について下記に概要を記載する。



▶ 図 53 K-1 溝平面・断面図 (1:50)

K-1 調査区北西に設定したトレンチである。4層中より幅2m程の溝が検出された。溝の南肩には掘り方に沿った縦方向の堆積が認められ(図53-14層)、使用時に肩崩れを防止するために土留め板等が設置されていたのではないかと推測される。埋土上層からは古墳時代後期所産の土師器及びび須恵器が出土しているが、下層で明確な時期の判別できる遺物が出土しておらず、移行の時期は判じ難い。

遺構の検出は、4層～5層の褐色極細粒砂層中では判別に時間を要するが、6層上面(青灰色シルト層)では比較的容易に確認できる。しかしながら、断面図からも明らかなように6層上面でとらえた遺構は、その上部が削平されてしまう可能性が高いことに注意が必要である。

K-2 4層～7層にかけて古墳時代の遺物が出土し、5層上面から6層上面にかけて遺構の検出が可能である。壁面等で数基の柱穴を確認しており、トレンチ南側の壁面で焼土が確認されるなど、遺構の分布は密である。埋土は暗褐色極細粒砂と青緑灰色シルトが確認されるが、これらは遺構の時期差を示すものではなく、埋土の上下層であろうと思われる。

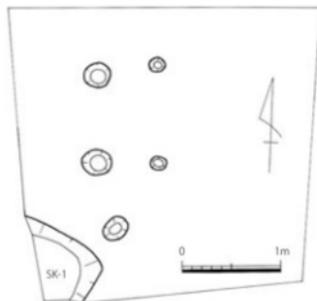
K-2においても褐色極細粒砂層から青灰シルト層にかけて遺構が確認されており、状況はK-1と同様である。

K-3 6層～10層にかけて遺物が出土し、8層以下で遺構が確認されている。盛土中に含まれた雨水等がトレンチ内に著しく流れ込むため、調査を迅速に行わねばならず、褐色極細粒砂層上では遺構の確認に時間を要するため、検出の容易な10層上面で検出作業を行った。残存する遺構の深さ等から考えても確認された遺構は概ね褐色極細粒砂層(7層～8層)より存在するものと考えてよさそう。なお、10層中より1点のみであるが、胎土及び形状が弥生土器に酷似した土器片を確認している。

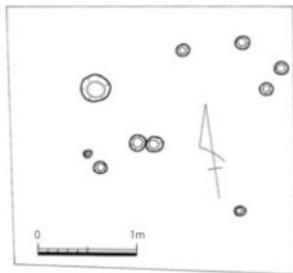
遺構は確認しておらず、遺物量も微量であるため断定し難いが、弥生時代の遺構及び包含層が残存する可能性が指摘できる。

K-4 9層及び10層より遺物及び遺構を確認している。時期は他のトレンチ同様、古墳時代後期の所産である。11層上面にも遺構は存在するものと思われるが、K-4では明確な遺構を確認してはいない。しかし包含層の堆積状況及び遺物の出土状況、また壁面では細い溝状の窪みも確認されるなど遺構が存在する可能性は高いものと考えられる。

なお、当トレンチでは16層上面にて9基の柱穴を確認しているが、15層・16層中では遺物等を確認していない。しかしながら、上部の包含層からは約80cmほどの無遺物層をはさんでおり、別時期の遺構である可能性が高いものと思われる。遺構埋土は暗灰色を呈し、16層上面で



▶ 図54 K-3 遺構平面図 (1:50)



▶ 図55 K-4 遺構平面図 (1:50)

T.P.+0.00m



▼ E.1

1. 盛土
2. 黒灰色粘土層状砂～シルト
3. 黒灰色粘土層状砂
4. 黒灰色シルト～粘土層状砂 (上部が代官代官土質混在層)
5. 黒灰色シルト～粘土層状砂 (下部が代官代官土質)
6. 黒灰色粘土 均質で強い電位を示す
7. オリーブ灰色粘土
8. 赤灰色粘土
9. オリーブ灰土
10. 黒灰色粘土層状砂～シルト 中・下部質
11. 黒灰色粘土層状砂
12. 赤灰色粘土層状砂
13. 黒灰色粘土層状砂

▼ E.2

1. 盛土
2. 黒灰色粘土層状砂～粘土
3. 黒灰色粘土層状砂
4. 黒灰色シルト～粘土層状砂 其分は比色板
5. 黒灰色粘土層状砂～シルト Mn粘濁液に含む
6. 赤灰色粘土 均質
7. 赤灰色粘土 (遺物混在含む)
8. 赤灰色粘土
9. オリーブ灰色粘土

▼ E.3

1. 盛土
2. 黒灰色粘土層状砂～シルト
3. 黒灰色粘土層状砂～シルト 層厚面上部に Mn 含む
4. 黒灰色粘土層状砂～シルト 赤土 Mn 含む
5. 赤灰色粘土層状砂～シルト 赤土 Mn 含む
6. 赤灰色粘土層状砂～シルト 赤土 Mn 含む
7. 赤灰色粘土層状砂～シルト (3.5層)
8. 赤灰色粘土層状砂～シルト (3.5層)
9. 赤灰色粘土層状砂～シルト 粘質 (3.5層)
10. 赤灰色粘土層状砂
11. 赤灰色粘土層状砂
12. オリーブ灰色粘土
13. 赤灰色粘土層状砂
14. 赤灰色粘土層状砂
15. 赤灰色粘土層状砂

▼ E.4

1. 盛土
2. 黒灰色シルト～粘土層状砂
3. 黒灰色粘土層状砂～シルト
4. 赤灰色シルト～粘土
5. 赤灰色シルト～粘土層状砂
6. 赤灰色粘土 均質
7. 赤灰色粘土 均質
8. 赤灰色粘土～粘土層状砂
9. 赤灰色粘土層状砂～シルト 粘質
10. 黒灰色粘土層状砂～シルト
11. 赤灰色シルト 若干 10層分認め
12. オリーブ灰土層状砂
13. 赤灰色粘土層状砂～粘土
14. 赤灰色粘土層状砂
15. オリーブ灰色粘土～粘土
16. 赤灰色粘土層状砂
17. 赤灰色粘土層状砂
18. 赤灰色粘土層状砂

▼ E.5

1. 盛土
2. 赤灰色シルト～粘土
3. 赤灰色シルト～粘土 (濃黄褐色粘土層状砂混入)
4. 赤灰色シルト 均質
5. 黒灰色粘土層状砂～粘土 濃黄褐色 粘土層状砂混入
6. 赤灰色シルト～粘土層状砂 中・下部の位置で褐色を示す
7. 赤灰色粘土層状砂
8. オリーブ灰色粘土 均質かつ粘質
9. 赤灰色粘土層状砂
10. 赤灰色粘土層状砂

▼ E.6

1. 盛土
2. 赤灰色粘土層状砂～シルト 粘質
3. 赤灰色粘土層状砂
4. 赤灰色粘土層状砂
5. 赤灰色粘土層状砂～シルト
6. 赤灰色粘土層状砂～シルト
7. 赤灰色粘土層状砂
8. 赤灰色粘土層状砂
9. 赤灰色粘土層状砂
10. 赤灰色粘土層状砂
11. 赤灰色粘土層状砂～シルト 粘土層状砂多く含む
12. 赤灰色粘土層状砂 (6.2～3mm) 混入
13. 赤灰色粘土層状砂

▲ 図 56 K区 柱状図 (1:40)

は比較的容易に検出できる。3m四方に満たないトレンチ内に9基の柱穴が存在することから遺構の密度はきわめて高い状況であるといえる。当該層位については、時期、広がりともに注意が必要である。K-5 これまでのトレンチとは様相が大きく変容し、遺物を包含していた褐色極細粒砂層が観察されなくなる。かわりに植物遺体を多く含む極細粒砂（～細粒砂）層が堆積し、遺物はほとんど見られなくなる。K-5では植物遺体を含む腐植堆積層の下に堆積する暗灰色シルト層（7層）より土師器片が2点出土しているが、時期も異なり、摩耗も著しいなど原位置をとどめたものではないと思われる。K-6 堆積状況はK-5と同様でK-5の7層と対応する層位（12層）も存在するが、遺物は認められない。腐植堆積以下は、還元シルト（～粘土）層とグライ層（シルト）が互層に堆積している。

#### ▼まとめ

今回の調査では、調査地点の西側端で包含層が確認されなくなる他は、良好に埋蔵文化財が残存していることが明らかとなった。堆積の状況はK-1～K-4までとK-5・6で大きく異なり、K-1～K-4にて遺構および遺物が確認されている。旧地形はおそらく西に向かって落ちていくものと考えられ、腐植堆積層中にはラミナ状の堆積もみられることから堆積時に帯水した状況にあったものと思われる。

遺物及び遺構は褐色極細粒砂層を中心としてその前後の還元シルト層に存在する。K-1～K-4にかけてはいずれのトレンチでも多くの遺物が出土しており残存状態も良好である。

遺構の検出については褐色極細粒砂層中から存在していることは明らかであるが、当該層中では検出に時間を要し、遺構の形状も明確に把握しづらい。褐色極細粒砂層直下の還元シルト層上面では比較的容易に遺構検出が可能であるが、SD-1(K-1)の状況を鑑みると、遺構のかかなりの部分が失われてしまう可能性があることにも留意が必要であろう。

K-3及びK-4で確認された弥生時代の所産ではないかと思われる遺構及び遺物については、遺物の量が少なく、時期の判別は難しいものの、上層の遺構面とは時期の異なる遺構面が存在することを考慮した対応が必要である。

なお、当該調査の結果を受けて、古津賀遺跡群第6次調査として本発掘調査が実施され、古墳時代および弥生時代の遺構群が確認されており、K-1で確認した溝についてもその延長の一部を検出している。成果の詳細については報告書が刊行されている<sup>(1)</sup>ので、参照されたい。

(1) 『古津賀遺跡群』第1次～第6次発掘調査報告 2006 四万十市教育委員会

## 古津賀遺跡群 (L区: 2003004)

所在地 古津賀 1842-8  
 調査期間 2003.5.7 ~ 2003.5.9  
 調査原因 民間開発  
 調査面積 25 m<sup>2</sup> (746 m<sup>2</sup>)  
 時代 —  
 調査種別 試掘確認調査



▶ 図 57 調査地点位置図

### ▼ 調査の経過

当該調査は、店舗の移築新設に伴って、埋蔵文化財の取扱いを判断するために実施された試掘確認調査である。

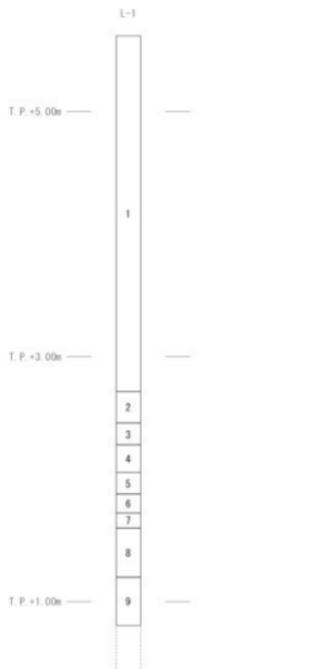
### ▼ 調査の概要

調査対象地が狭小であるため、調査トレンチを1箇所のみ設定した。調査は、表土層を重機によって除去したのち、人力を併用して遺構・遺物の発見に努め、基本層序の確認、写真撮影等を行った。

2m程の盛土層を除去すると、グライ化した還元シルト層が50cmほど堆積する(2-4層)。5層以下は植物遺体を多く含む腐植堆積層を形成しており、6層はとくに木片などの植物遺体の顕著な層である。5層以下は植物遺体の量が増減しながらシルト層との互層になって堆積が進行している。遺物は5層より出土しているが、小片でローリングも著しいため原位置をとどめたものではないものと考えられる。

### ▼ まとめ

今回の調査では、明確な遺構・遺物ともに確認しておらず、原位置をとどめないものと思われる器壁の摩滅した土器片が少量出土したにとどまる。近隣における既往の調査結果でも明瞭な包含層は確認されておらず、埋蔵文化財の残存状況については、辺縁に位置しているものと考えられる。



- ▼ L-1
- 表土
  - 暗灰色シルト(極細粒砂) 細まりの多い粘質層
  - 暗灰色シルト 青灰色中粒砂及び灰白色ブロック(約10cm)混入
  - 暗灰色シルト 青灰色中粒砂混入
  - 暗灰色シルト 暗灰色極細粒砂及び植物遺体少量混入(土器破片2点出土)
  - オリブ褐色シルト(極細粒砂) 灰白色極細粒砂ブロック(約10cm)混入
  - 植物遺体顕著 層理面にクマアザの堆積が見られる
  - 暗オリブ灰色シルト(粘土) 灰白色極細粒砂ブロック混入
  - 暗オリブ灰色シルト 灰白色ブロック少量混入、粘質強い
  - 暗褐色極細粒砂 植物遺体多く含む腐食堆積層

▶ 図 58 L区 柱状図 (1:40)

## 古津賀遺跡群 (M区: 2003001)

所在地	古津賀字敷岡、正分、峰ノ森、 コシ前、ウラクニ
調査期間	2003.10.7 ~ 2003.10.17
調査原因	土地区画整理事業
調査面積	192 m <sup>2</sup> (35,000 m <sup>2</sup> )
時代	古墳時代(?)
調査種別	試掘確認調査



▶ 図59 調査地点位置図

### ▼ 調査の経過

当該調査は、土地区画整理事業に伴う造成予定地についての試掘確認調査である。古津賀土地区画整理事業については、平成10年度以降、計画予定地内で試掘確認調査を継続的に実施しており、大規模な造成工事は今度が最後となる。

### ▼ 調査の概要

**基本層序** 大別される基本層序は、耕作土、青灰シルト層、褐灰極細砂(～シルト)層、青灰色シルト(～粘土)層、青灰色シルト層に黄色斑文が分布する層、暗灰色粘土層の6層である。これらの堆積状況から、全体として南側に向かって緩やかに傾斜する旧地形が復元できる。なお、トレンチ7、11では基盤となる礫層が現耕作土直下に存在している。近隣での聞き取りから、従来は小規模な独立丘陵が存在したことがわかっており、水田域を広げるためにこの小丘陵を削平したとのことであった。

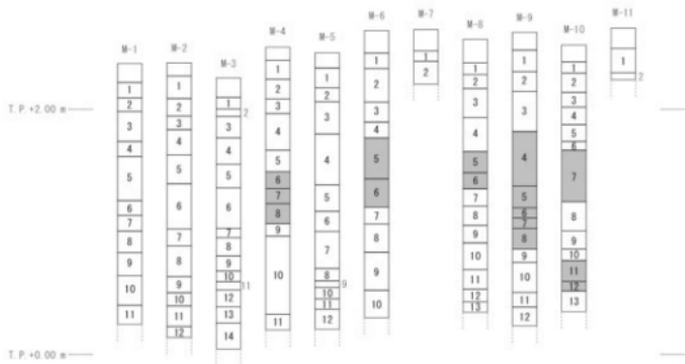
**各トレンチの状況** 調査対象地内にトレンチを11カ所設定した結果、明確な遺構が確認されたトレンチはなく、遺物が確認されたトレンチは4、6、8、9、10の5つである。

**M-4・6・8・9** いずれも青灰色シルトに黄色斑文の分布する層位の前後で遺物が確認される。この層位は既往の調査でも確認されており、周辺の層位を比較する場合にメルクマールになるものと考えられる。出土する遺物は土師器片であるが、摩滅が著しく時期及び器種の特定は難しい。

**M-10** 他のトレンチと違い、T.P.+1.0m以下の地点でも遺物が確認されている。出土遺物はいずれも細片であり、時期の特定は困難であるが、古墳時代もしくはそれ以降の所産ではないかと想定される。

### ▼ まとめ

今回の調査では、明確な遺物包含層及び遺構を確認することはなかった。遺物が出土するトレンチにおいても、プライマリな出土状況ではない。しかし、この状況は周辺の丘陵上に遺構及び包含層が存在する可能性を示唆しており、今回の調査範囲の北側及び東側をかこむ丘陵部分については、なお注意が必要であると言える。今後、峰ノ森など周辺丘陵上の状況が明らかになれば、展開していた遺跡の様相も想定できるようになるものと期待される。



▼ M-1

1. 灰褐色シルト～粘土
2. 褐色シルト～極細粒砂
3. 青灰色シルト～粘土
4. 灰色シルト+浅黄色シルト
5. 灰色シルト+褐色シルト マンガン痕あり
6. 浅褐色極細粒砂
7. 暗灰色シルト～粘土 粘質
8. 暗灰色シルト+黄壤
9. 暗灰色シルト～粘土
10. 暗灰色シルト～粘土
11. 暗灰色シルト～粘土

▼ M-2

1. 床土
2. 暗灰色シルト～極細粒砂
3. 灰色シルト
4. 暗灰色シルト
5. 灰色シルト粘土
6. 青灰色シルト+黄壤
7. 暗灰色粘土+青灰色粘土+ラミナ状
8. 灰色粘土+黄壤
9. 暗灰色粘土
10. 暗灰色粘土+青灰色
11. 灰色粘土
12. 暗灰色シルト+青灰色ラミナ 粘土
13. 暗灰色粘土+極細粒砂+粘有

▼ M-3

1. 床土
2. 暗灰色シルト
3. 灰色シルト+鉄分沈着あり
4. 暗灰色シルト～極細粒砂
5. 暗灰色シルト～極細粒砂
6. 暗灰色シルト+黄壤
7. 暗灰色粘土+黄壤
8. 青灰色シルト～粘土+黄壤
9. 灰色粘土
10. 暗灰色粘土
11. 青灰色粘土
12. 暗灰色粘土
13. 暗灰色粘土
14. 暗灰色粘土

▼ M-4

1. 床土
2. やや暗灰色シルト+粗シルト
3. 暗灰色シルト
4. 暗灰色シルト+黄壤
5. 灰色シルト粘土+鉄分沈着あり
6. 暗灰色シルト～極細粒砂
7. 灰色粘土
8. 暗灰色
9. 暗灰色粘土
10. 暗灰色粘土
12. 暗灰色粘土 極細粒砂～粘土

▼ M-5

1. 灰色極細粒砂～シルト
2. 暗灰色極細粒砂
3. 灰色粘土
4. 灰色極細粒砂+鉄分沈着あり
5. 暗灰色粘土+オリーブ痕
6. 青灰色粘土+灰色粘土
7. 青灰色粘土
8. 灰色粘土シルト
9. 青灰色+青灰色粘土
10. 灰色粘土～シルト
11. 灰色粘土～シルト
12. 灰色粘土～シルト
13. 灰色シルト+青灰色極細粒砂～粘土 強い軟弱 植物遺体有

▼ M-6

1. 暗灰色シルト+黄土
2. 灰色粘土+極細粒砂
3. 灰色粘土+極細粒砂
4. 青灰色極細粒砂～粘土
5. 青灰色粘土+極細粒砂
6. 青灰色シルト+粘土+黄壤
7. 暗灰色シルト+青灰色シルト粘土
8. 灰色シルト+青灰色極細粒砂～粘土
9. 暗灰色粘土
10. 暗灰色粘土～細粒砂

▼ M-7

1. 床土
2. ベース(橙白粗砂)～シルト

▼ M-8

1. 暗青灰色極細粒砂
2. 暗褐色極細粒砂
3. 灰色極細粒砂～シルト
4. 灰色シルト
5. 青灰色シルト+黄壤
6. 5c同じ 細礫有
7. 灰色シルト+青灰色粘土
8. 青灰色シルト+灰色粘土
9. 青灰色粘土+白細粒砂
10. 灰色粘土
11. 暗灰色粘土
12. 灰色粘土
13. 青灰色+灰色粘土
14. 青灰色+炭化物有

▼ M-9

1. 暗+青灰色 粘土
2. 暗灰色極細粒砂
3. 灰色粘土
4. オリーブ灰色粘土 青灰色シルトブロック混
5. 暗灰色粘土+青灰色シルトブロック
6. 青灰色粘土+黄壤
7. 暗灰色+青灰色シルトブロック
8. 5c同じでやや暗灰色
9. 8と同じでやや暗灰色
10. 暗灰色粘土+少量青灰色シルトブロック
11. 灰色粘土+細粒砂粘質
12. 黒灰色粘土+青灰色シルトブロック

▼ M-10

1. 床土
2. 灰色極細粒砂～シルト
3. 暗灰色極細粒砂
4. 灰色極細粒砂
5. 灰色オリーブ灰色極細粒砂
6. 暗オリーブ灰色極細粒砂
7. 灰色粘土+極細粒砂
8. オリーブ灰色粘土
9. 青灰色粘土
10. 青灰色粘土+黄壤
11. 暗灰色粘土
12. 黒灰色粘土
13. 暗灰色粘土
14. 青灰色細粒砂～シルト
15. 暗オリーブ灰色シルト

▼ M-11

1. 灰色粘土
2. 暗灰色+黄灰色極細粒砂～シルト

▶ 図60 M区 柱状図 (1/40)

## 古津賀遺跡群 (N区: 2004010)

所在地 古津賀仮換地 22 街区 7 画地  
保留地 22 街区 8 画地  
調査期間 2004.10.13 ~ 2004.10.15  
調査原因 民間開発  
調査面積 50 m<sup>2</sup> (2,756 m<sup>2</sup>)  
時代 古墳時代(?)  
調査種別 試掘確認調査



▶ 図 61 調査地点位置図

### ▼ 調査の経過

当該調査は、スポーツ遊戯施設新設にともなって実施された試掘確認調査である。近隣には古津賀古墳が存在し、I区の調査においても良好な遺構や包含層が確認されているため、今次の調査でその広がりを確認することができるかと期待された。

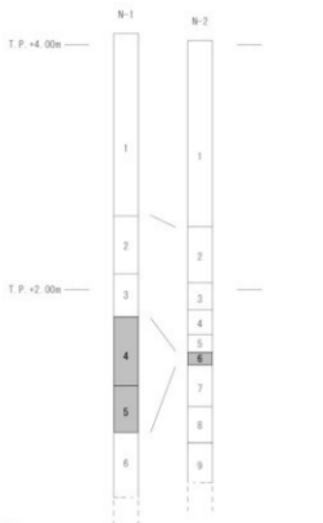
### ▼ 調査の概要

調査対象地内で、トレンチを南北2箇所設定し、重機を併用して調査を実施した。

基本層序 地表面から1.5mまでは盛土がなされており、その下に旧耕作土が堆積している。耕土下にグライ化した堆積が約50cm堆積し、褐色の極細粒砂層に続く。N-1とN-2では褐色極細粒砂層の層厚に違いがあるものの両トレンチで確認でき、N-1では古墳時代以降の所産と考えられる土師器片が出土する。この層を過ぎると再度グライ化が進行し、堆積もシルトから粘土へと移行する。

なお、古墳横の雨水管工事に伴う調査(I区)では、盛土と耕土は確認されないものの、類似する褐色極細粒砂層が比較的浅い位置で確認されており、今回の層序と比較すると丘陵の根根が徐々に高さを減じながら東側に伸びているものと考えられる。

N-1 遺物は2・3層(図62)より散見できるがこれらは耕作時に4層を攪乱した際の混入物と考えられる。



- ▼ N-1
1. 盛土
  2. 黄灰色シルト(～粘土) やや極細粒砂含む 旧耕土
  3. 黄褐色極細粒砂～シルト 微塵ながら遺物砂片が含まれる 床土
  4. 明褐色極細粒砂～シルト やや粘質 遺物含む包含層
  5. 黄褐色極細粒砂～シルト やや粘質 4層との境界面に黄褐色シルトが帯状に堆積する 遺物含む包含層
  6. 黄灰色粘土～シルト 強い粘質 明オリブ鉄の斑紋が観察される
- ▼ N-2
1. 盛土
  2. 黄灰色シルト(～極細粒砂) 旧耕土
  3. 灰～黄白色極細粒砂～シルト
  4. 灰白色極細粒砂～シルト マンガン灰が散見される
  5. 黄灰色シルト～極細粒砂 やや粘質砂含む
  6. 暗褐色極細粒砂(～シルト) N-1の包含層に対応するものと考えられるが遺物は見られない
  7. 灰質褐色シルト(～極細粒砂) やや粘土含む
  8. 黄灰色粘土～シルト 均質な粘質の堆積 鉄分の沈着が観察される
  9. 暗黄灰色シルト～粘土

▶ 図 62 N区 柱状図 (1:40)

明確に遺物包含層として認められるのは褐色極細粒砂の4層・5層であり、土師器片が少量確認されている。4層・5層にかけての包含層の厚みは90cmを超える。N-1では遺構を確認していないが、遺物の出土状況は原位置を保っているものと思われ、周囲に遺構の残存する可能性は高いものと考えられる。

N-2 前述トレンチで確認された褐色極細粒砂層は層厚を減少させながらも存在する(N-2 6層)。N-2では褐色極細粒砂層から遺物及び遺構は確認されていない。N-1トレンチで遺物を確認した層位は、堆積が10cm～15cm程度に減少しており、遺物等の存在も希薄になっていく。

#### ▼まとめ

今回の調査では、調査範囲の南側に設定したN-1において遺物の存在を確認した。N-1付近での埋蔵文化財の残存する深さは現在の地表面より約2.3m～3.2mほどまでである。遺物の出土量は多いとは言えないが、残存状態は良好で、周辺に遺物・遺構を含む埋蔵文化財の存在する可能性も高い。しかし、北側になると包含層は希薄となり遺物も確認されない状況である。

北側に設定したN-2の状況や既往の周辺での調査結果から勘案すると、当該地点から国道56号線北側の谷地形については、流出による微細な遺物片を確認しえたとしても、良好な埋蔵文化財の残存する可能性は低いものと考えられる。

## 遺物観察表

### ▼ A区：98-1NK

図番号	図版番号	出土地点 層位	器種	法量 (cm)		色調			特徴
				口径	器高	内面	外面	断面	
1	9	A-1	合子蓋	7.0	1.8	10YR8/6 黄橙	10YR8/6 黄橙	10YR8/6 黄橙	外面にケズリ。内外面回転ナデ。
2	9	A-1	合子	7.5	2.6	10YR8/6 黄橙	10YR8/6 黄橙	10YR8/6 黄橙	内外面回転ナデ。
3	9	表探	合子蓋	5.1	8.5	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	内外面回転ナデ。
4	9	表探	合子	6.0	2.1	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	外面上部に浅溝2条。内外面回転ナデ。回転車切り。
5	9	A-12 3～4層	甕	-	(4.3)	10R5/4 赤褐	5YR4/2 灰褐	7.5YR7/3 に近い 橙	縞筋。外面に遺状浮文、凹線。
6	9	A-18 4層	椀	09.2	(3.0)	2.5GY8/1 灰白	2.5GY8/1 灰白	N8/0 灰白	内外面に染付。口縁内面に二重凹線。
7	9	表探	丸入札	09.4	(5.1)	10YR7/2 に近い 橙	10YR7/2 に近い 橙	7.5YR6/6 橙	香炉か?
8	9	A-11	不明	-	-	10GY7/1 明緑灰	10GY7/1 明緑灰	N8/0 灰白	
9	9	A-1P1 3層	皿	(14.0)	(2.15)	10Y4/2 オリーブ 灰	10Y4/2 オリーブ 灰	5YR/1 灰白	口縁。
15	9	A-21	甕	(14.9)	(3.9)	10YR7/2 に近い 黄橙	10YR7/2 に近い 黄橙	10YR7/3 に近い 黄橙	内外面ナデ。
16	9	A-21	甕	(17.0)	(5.8)	10YR7/3 に近い 黄橙	10YR8/2 灰白	10YR7/3 に近い 黄橙	内外面に指頭凹線。粘土帯磨ぎ目。内外面ナデ。
17	9	A-1	甕	(17.6)	(12.5)	10YR5/2 灰黄橙	10YR4/1 黄灰	7.5Y5/1 灰	内面に指頭凹線。内外面ナデ。
18	9	A-21 10層	甕	(22.0)	(1.4)	10YR7/4 に近い 黄橙	10YR6/3 に近い 黄橙	N3/0 暗灰	口縁。口縁外面に刻目。2条の隆起突帯。凹線。
19	9	A-16 灰褐色粘土層	甕	(28.0)	(1.9)	5Y7/1 灰白	7.5YR9/3 に近い 橙	5Y4/1 灰	南四角型狭口縁。口縁外面に凹線。内面に指頭土の隆起突帯。刻目。内面にナデ。
20	9	A-25	鉢部	-	(3.0)	7.5Y5/1 灰	7.5Y6/1 灰	7.5Y5/1 灰	南四角型狭口縁。口縁外面に凹線。内面に指頭土の隆起突帯。
21	9	A-21 10層	甕	(29.0)	(2.5)	10YR5/2 灰黄橙	N5/0 灰	N5/0 灰	口縁。口縁外面に刻目。内外面ナデ。
22	9	A-17	甕	(11.4)	(4.8)	N4/0 灰	N4/0 灰	10YR6/2 灰黄橙	外面に刻目。内外面ナデ。
23	9	A-5 9層	土器	(1.4)	(2.8)	2.5Y7/4 浅黄	5YR7/6 橙	10Y6/1 灰	
24	9	A-2	小型罐	-	(8.3)	N6/0 灰	N5/0 灰	5Y7/2 灰白	外面に波状文。内面に指頭凹線。内外面に突起物有り。
25	10	A-40	杯身	(15.05)	5.05	N6/0 灰	N6/0 灰	N6/0 灰	内外面ナデ。
26	10	A-41 11層	杯身	-	(1.6)	N7/0 灰白	N6/0 灰	N7/0 灰白	底部。
27	10	A-28 10層	片口鉢	(26.0)	(2.7)	10Y6/1 灰	N4/0 灰	10Y6/1 灰	葉巻系。
28	10	A-30	甕	(27.0)	(1.7)	N5/0 灰	N5/0 灰	外面 N5/0 灰。内側 10R4/3 赤褐	口縁。内外面ナデ。
29	10	A-30	甕	(26.8)	(1.2)	5Y2/1 黒	N4/0 灰	7.5R5/2 灰赤	口縁。内面に自然粘付着。内外面ナデ。
30	10	A-28 10層	土器	1.35	4.55	5YR7/4 に近い 橙	5YR7/4 に近い 橙	5Y7/1 灰白	
31	10	A-30	缸頸口	(4.6)	1.5	N8/0 灰白	N8/0 灰白	N8/0 灰白	内面から外面上方にかけて白色釉。
32	10	A-27 10層	底部	(7.2)	(1.05)	10YR5/3 に近い 黄橙	10YR6/4 に近い 黄橙	10YR6/4 に近い 黄橙	底部。内面、底面にハケのナデ。
33	10	A-30	高杯	-	(4.8)	N7/0 灰白	10YR6/1 黄灰	N6/0 灰	脚部。内面に粘土帯磨ぎ目。外面ナデ。
34	10	A-40	鉢	-	(7.65)	5YR6/6 橙	2.5YR6/8 橙	N6/0 灰	内面にナデ。
35	10	A-30 灰褐色シルト層	高杯	-	(0.2)	5YR7/6 橙	5YR7/8 橙	5YR7/8 橙	脚部。内面に指頭凹線。較り面。内外面ナデ。
36	10	A-40 黄灰色シルト層	高杯	-	(5.8)	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	脚部。内面に指頭凹線。較り面。内外面ナデ。
37	10	A-39	白付鉢	-	(8.2)	5YR6/6 橙	2.5YR6/8 橙	N6/0 灰	外面に粘土帯磨ぎ目。内面と底面外面に指頭凹線。内外面ナデ。

調査号	調査番号	出土地点・層位	器種	法量 (mm/g)			石材	特徴
				最大長	最大幅	厚さ		
10	9	室神社表探	甕水遣実	247	-	1.4	2.6	
11	9	表探	甕平遣実	248	-	1.3	5.0	
12	9	A-17 灰黒色粘土層	碧玉	13.7	-	3.6	0.3	
13	9	A-16 灰黒色粘土層	石鏡	27.0	18.7	4.3	2.2	サヌカイト 未製品。
14	9	A-17 灰(黒)色粘土層	石鏡	22.8	17.0	3.0	1.3	サヌカイト 未製品。

▼B区：98-2NK

調査号	調査番号	出土地点 層位	器種	法量 (cm)		色調			特徴
				口径	器高	内面	外面	断面	
38	12	B-10 8層(砂質土)	甕	-	(5.0)	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/3 に近い 黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	体部、外面に断面三角形の胎付け突部、内外面ナデ。
39	12	B-5 7層	不明	-	(2.4)	10YR6/3 に近い 黄褐色	10YR6/4 に近い 黄褐色	2.5Y6/4 に近い 黄	底部、外面に竹貫文、内外面ナデ。
40	12	包含層	甕	-	(3.3)	10YR7/1 灰白	N5/O 灰	N3/O 焼灰	口縁、口縁外面に凹階土の微隆起突部、朝日ナデ、内外面ナデ。

▼C区：99-4NK

調査号	調査番号	出土地点 層位	器種	法量 (cm)		色調			特徴
				口径	器高	内面	外面	断面	
41	19	C-8 7層	甕	-	(1.1)	2.5Y8/2 淡黄	5B6/1 青灰	2.5Y8/2 淡黄	外面に軸。
42	19	C-8 2層	椀	-		5G4/1 暗緑灰	5G4/1 暗緑灰	N8/O 灰白	底部。
43	19	C-7 5層	椀	-	(2.5)	10CY8/1 明緑灰	7.5CY8/1 明緑灰	N8/O 灰白	
44	19	C-12 4層	皿	-	(1.9)	5CY8/1 灰白	10Y6/2 オリーブ 灰	N8/O 灰白	外面に縁軸。底部内面に二重凹縁。
45	19	C-19	高杯	-	(7.8)	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	5Y6/1 灰	胴部、内外面に指頭圧痕。ナデ。内面に絞り痕。
46	19	C-19	椀	12.1	5.5	10YR7/3 に近い 橙	5YR7/4 に近い 橙	5YR7/4 に近い 橙	内外面ナデ。
47	19	C-19 6層	手づくね	4.5	3.8	10YR7/1 灰白	5YR6/4 に近い 橙	-	内面に指頭圧痕。外面ナデ。
48	19	C-19	高杯	-	(7.2)	10YR6/1 暗灰	5YR6/1 暗灰	5YR7/6 橙	胴部、内面に絞り痕。指頭圧痕。
49	19	C-19	甕	-	7.8	7.5YR7/4 に近い 橙	5YR6/8 橙	-	内外面に工具痕。ナデ。
50	19	C-7 15層	甕	-		7.5YR8/4 淡黄橙	7.5YR8/6 淡黄橙	7.5YR6/1 暗灰	口縁、内外面に指頭圧痕。内外面ナデ。

▼E区：00-2NK

調査号	調査番号	出土地点 層位	器種	法量 (cm)		色調			特徴
				口径	器高	内面	外面	断面	
51	28	E-21 7層	杯蓋			N7/O 灰白	N7/O 灰白	2.5Y7/1 灰白	
52	28	E-31	杯蓋	5.15		N6/O 灰	N5/O 灰	N6/O 灰	外面上方ヶズリ。内外面ナデ。
53	28	E-31 4層	杯蓋	4.7		N7/O 灰白	N5/O 灰	N7/O 灰白	外面上方ヶズリ。内外面ナデ。
54	28	E-31	杯身	-	(4.7)	N6/O 灰	N6/O 灰	N6/O 灰	外面下方ヶズリ。内外面ナデ。
55	28	E-18	口縁	(3.8)		7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	5Y6/1 灰	内面に指頭圧痕。内外面ナデ。
56	28	E-32 4層	高杯	(4.7)		5YR5/6 明赤褐	5YR6/6 橙	5YR7/6 橙	杯部、内面に指頭圧痕。内外面ナデ。
57	28	E-21	高杯	-	(7.2)	10YR7/6 明黄褐色	7.5YR6/4 に近い 黄褐色	7.5YR6/4 に近い 黄褐色	胴部、内面上部に工具痕(指頭圧痕)。内外面ナデ。
58	28	E-18	高杯	-	(8.3)	10YR7/2 に近い 黄褐色	10YR7/2 に近い 黄褐色	10YR7/2 に近い 黄褐色	内面に指頭圧痕と日、指頭圧痕。内外面ナデ。
59	28	E-21	甕			5YR6/6 橙	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	内外面ナデ。

▼ G区：2001003

図番号	図版番号	出土地点 層位	器種	法量 (cm)		色調			特徴
				口径	器高	内面	外面	断面	
60	32	G-2 青灰色炒し土層	椀	(13.0)	4.9	7.5YR6/8 橙	7.5YR6/8 橙	10Y7/1 灰白	内外面ナデ。
61	32	G-2 青灰色炒し土層	底部	-	(3.0)	10YR7/3 に近い 黄橙	7.5YR7/4 に近い 橙	10YR7/3 に近い 黄橙	底部、外面に指頭圧痕。内外面ナデ、割痕。
62	32	G-2 M	皿	-	(1.1)	2.5YR2 灰白	2.5YR2 灰白	2.5YR8 灰白	底部、内外面ナデ。
63	32	G-1 SK-1 周辺	底部	-	(5.8)	7.5YR6/6 橙	7.5YR7/6 橙	5YR6/8 橙	底部、内面に指頭圧痕。板状工具によるナデ、外面割痕。
64	32	G-2 青灰色炒し土層	高杯	-	(7.9)	5YR7/3 に近い 黄橙	10YR7/3 に近い 黄橙	2.5Y5/1 黄灰	胴部、外面に工具痕。内面に指頭圧痕。内外面に板状工具によるナデ、ナデ。
65	32	G-1 SK-1 周辺	裏	(14.6)	(8.1)	7.5YR5/4 に近い 黄	10YR7/1 灰白	10YR4/1 黄灰	外面に指頭圧痕帯、内面浮文、線刻文、内面に指頭圧痕。内外面ナデ。

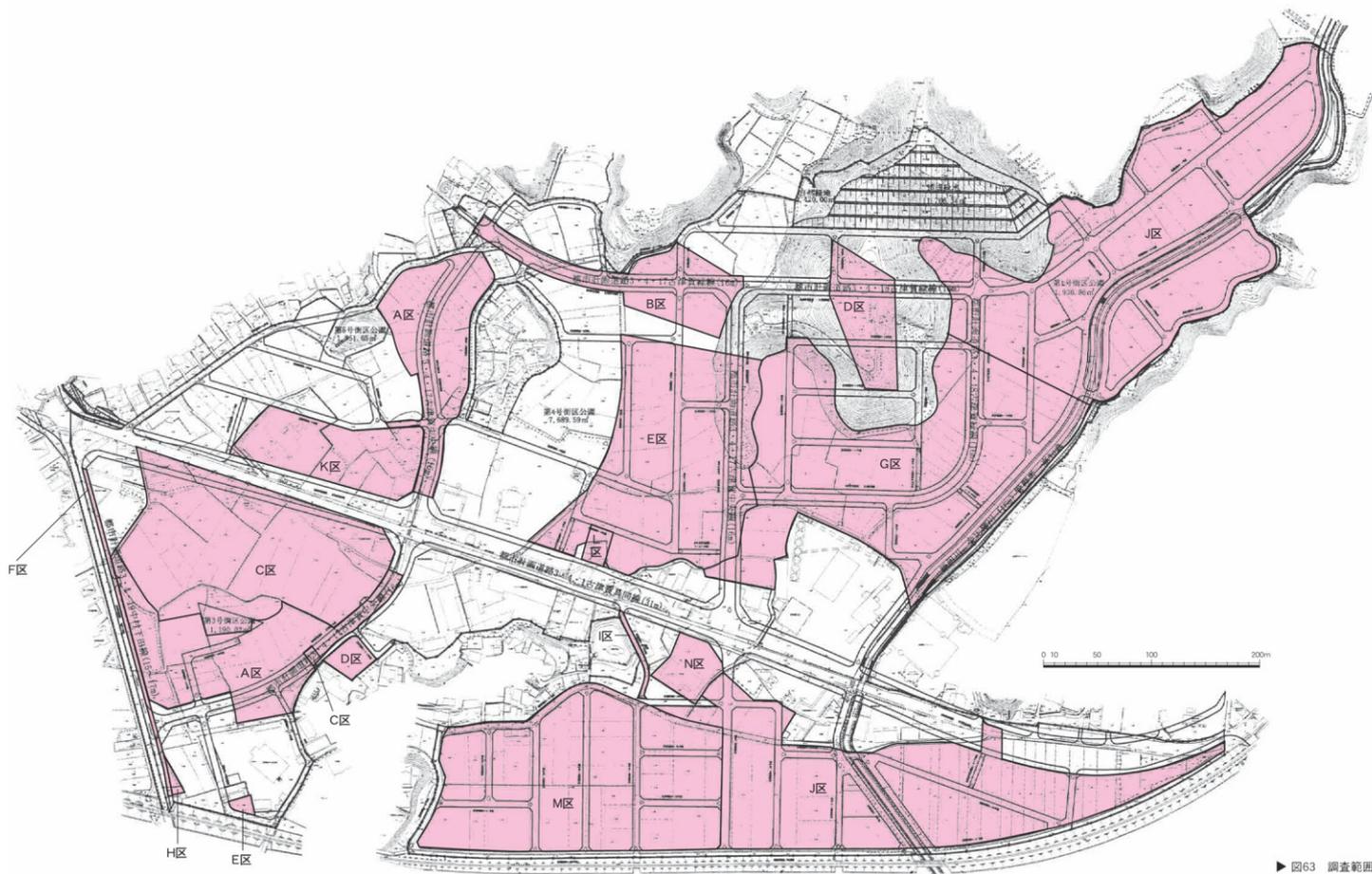
▼ I区：2002004

図番号	図版番号	出土地点 層位	器種	法量 (cm)		色調			特徴
				口径	器高	内面	外面	断面	
66	43	Sec-0 ~ 1 SK-1	手づくね	3.4	3.2	10YR7/3 に近い 黄橙	10YR7/3 に近い 黄橙	-	内面に指頭圧痕。内外面ナデ。
67	43	Sec-0 ~ 1 SK-1	手づくね	2.8	3.9	10YR7/3 に近い 黄橙	7.5YR7/6 橙	-	内面に指頭圧痕。内外面ナデ。
68	43	Sec-0 ~ 1 SK-1	手づくね	-	(2.8)	5YR7/3 に近い 黄橙	2.5YR7/2 明赤灰	N5/0 灰	内面に指頭圧痕。内外面ナデ。
69	43	Sec-0 ~ 1 SK-1	手づくね	-	(1.6)	7.5YR7/4 に近い 黄橙	7.5YR7/4 に近い 黄橙	7.5YR5/1 黄灰	内外面に指頭圧痕、ナデ。
70	43	Sec-0 ~ 1 SK-1	手づくね	-	(3.2)	7.5YR7/6 橙	10YR7/1 灰白	7.5YR8/4 浅黄橙	内面に指頭圧痕。
71	43	Sec-0 ~ 1 SK-1	手づくね	(2.8)	4.35	10YR7/2 に近い 黄橙	10YR7/2 に近い 黄橙	10YR7/2 に近い 黄橙	内外面に粘土帯痕など、ナデ。内面に指頭圧痕。
72	43	Sec-0 ~ 1 SK-1	手づくね	(3.6)	5.4	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	内面に指頭圧痕。
73	43	Sec-0 ~ 1 SK-1	すり鉢	-	(3.5)	7.5YR6/3 に近い 黄橙	7.5YR6/4 に近い 黄橙	5Y7/1 灰白	胴部底部、内外面ナデ。
74	43	Sec-0 ~ 1 SK-1	底部	-	(5.95)	7.5YR6/8 橙	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/1 黄灰	内面に指頭圧痕。内外面ナデ。
75	43	Sec-0 ~ 1 SK-1	高杯	-	(5.95)	5YR7/6 橙	5YR7/8 橙	10Y4/1 灰	胴部、内面に指頭圧痕。外面下部に工具痕。内外面ナデ。
76	43	Sec-0 ~ 1 SK-1	高杯	-	(6.5)	7.5YR7/4 に近い 黄橙	5YR7/6 橙	5YR5/1 黄灰	胴部、内外面ナデ。
77	44	Sec-7 ~ 8 I層	裏・蓋	-	(2.2)	10YR5/1 黄灰	10YR7/3 に近い 黄橙	7.5Y4/1 灰	口縁、外面ナデ。粘土帯痕付口縁。
78	44	Sec-7 ~ 8 I層	裏	(28.0)	(2.2)	10YR5/1 黄灰	10YR6/3 に近い 黄橙	10YR4/1 黄灰	口縁、口縁外面に割目。内外面ナデ。南四国型鉢。
79	44	Sec-7 ~ 8 I層	蓋	(12.0)	(2.3)	2.5YR6/1 黄灰	2.5YR6/1 黄灰	2.5YR6/1 黄灰	口縁、口縁内面に指頭圧痕。内外面ナデ、割痕。粘土帯痕付口縁。
80	44	Sec-6 ~ 8 I層	皿	-	(2.1)	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR7/3 に近い 黄橙	内外面ナデ、割痕。
81	44	Sec-0 ~ 2 1 ~ II層	手づくね	-	(2.2)	5YR7/4 に近い 黄橙	5YR7/4 に近い 黄橙	5YR7/4 に近い 黄橙	内面に指頭圧痕。内外面ナデ。
82	44	Sec-0 ~ 2 1 ~ II層	土罐	1.1	4.0	10R6/2 灰赤	10R6/2 灰赤	10R6/3 に近い 赤橙	
83	44	Sec-0 ~ 2 1 ~ II層	裏	(10.1)	(3.8)	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	7.5YR5/1 黄灰	口縁、外面に割断した陶障起突帯、指頭圧痕。粘土帯痕など、口縁内面にナデ。南四国型鉢。
84	44	Sec-0 ~ 2 1 ~ II層	椀	(10.6)	7.8	5YR7/4 に近い 黄橙	5YR7/4 に近い 黄橙	5YR6/1 黄灰	内外面ナデ。
85	44	Sec-6 ~ 8 I層	手づくね	-	(3.0)	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/2 灰橙	7.5YR7/6 橙	内外面に指頭圧痕。外面割痕。
86	44	Sec-7 ~ 8 I層	裏	(22.4)	(3.5)	10YR8/3 浅黄橙	2.5Y5/1 黄灰	N5/0 灰	南四国型鉢。口縁外面に陶障起突帯、割目。外面ナデ。
87	44	Sec-0 ~ 2 1 ~ II層	すり鉢	-	(5.5)	2.5YR6/6 橙	2.5YR5/4 に近い 赤橙	2.5YR6/6 橙	胴部、外面に粘土帯痕など。
88	44	Sec-0 ~ 2 1 ~ II層	底部	-	-	N8/0 灰白	N8/0 灰白	N8/0 灰白	
89	44	Sec-0 ~ 2 1 ~ II層	底部	-	(1.6)	10Y6/2 オリーブ 灰	10Y6/2 オリーブ 灰	N8/0 灰白	底部。

図番号	図版番号	出土地点・層位	図種	法量 (mm/g)				石材	特徴
				最大長	最大幅	厚さ	重量		
90	44	Sec-7～8 1層	石蔵	27.1	20.9	3.1	1.7	チャート	
91	44	Sec-7～8 1層	スケレイパー状 石磨	9.5	5.3	1.7	85.1	砂岩	
92	44	Sec-7～8 1層	甲石	8.95	8.2	4.9	470.0	砂岩	

▼J区：2002010

図番号	図版番号	出土地点 層位	図種	法量 (cm)		色調			特徴
				口径	高さ	内面	外面	断面	
93	46	J-1	土罎	1.3 (2.6)	(2.6)	10YR8/3 浅黄橙	10YR6/8 赤褐	2.5YR7/8 橙	外面ナデ。
94	46	J-30 耕作土	土罎	1.6 (2.7)	(2.7)	10YR6/3 に近い 黄橙	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	外面割肌。
95	46	J-18	罎	10.2 (6.4)	(6.4)	2.5YR6/4 に近い 橙	2.5YR6/6 橙	10R5/3 赤褐	内面に板状工具によるナデ。外面ナデ。



▶ 図63 調査範囲図



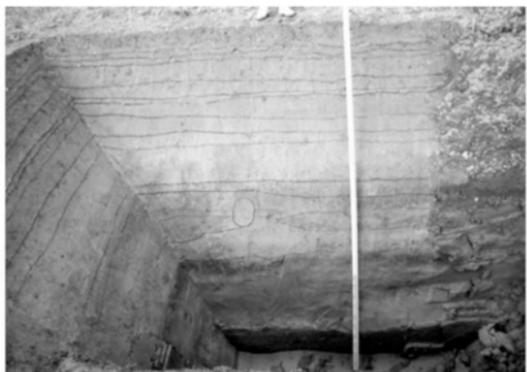
▶ 図64 トレンチ配置図1



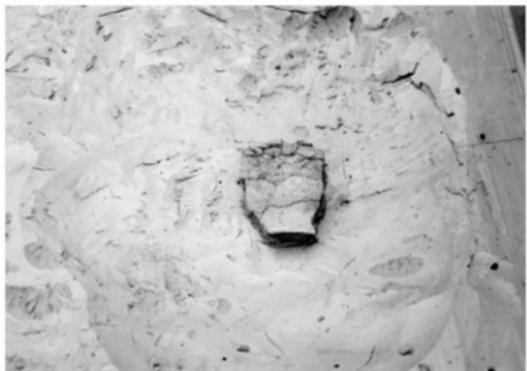
▶ 図65 トレンチ配置図 2



古津賀地区遠景



C-7 土層堆積状況



C-7 遺物 (50) 出土状況

D-8 SX-1 検出状況



D-15 SX-5 完掘状況



E-7 遺物出土状況

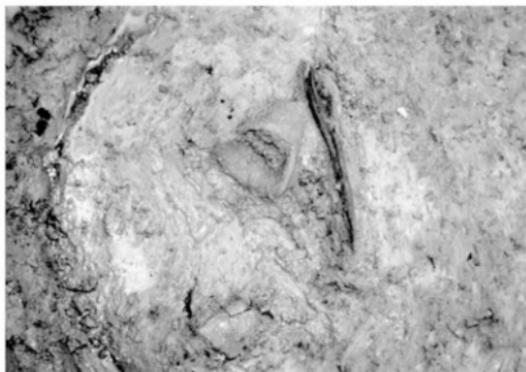




E-15 土層堆積状況



E-18 土層堆積状況



E-18 遺物出土状況

E-21 遺物出土状況

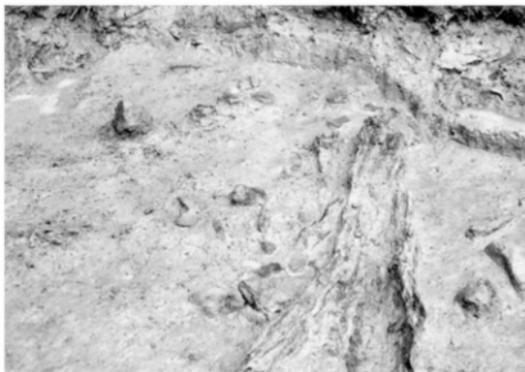


E-31 遺物出土状況



E-36 土層堆積状況





G-12 遺物出土状況



G-32 遺物出土状況

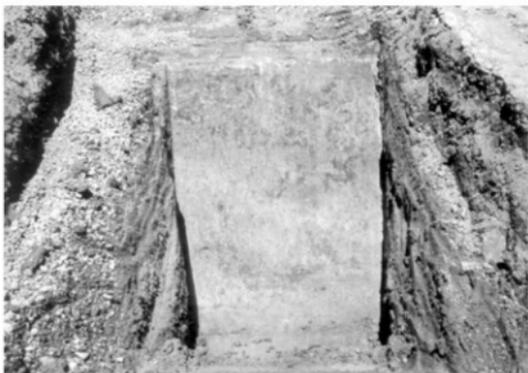


G-32 土坑検出状況

Ⅰ区 SX-1 検出状況



Ⅰ-8 土層堆積状況



K-1 土層堆積状況





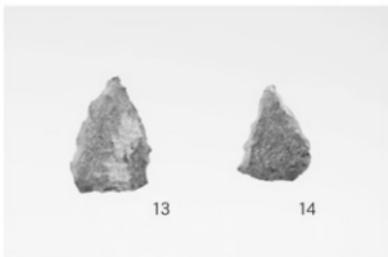
K-1 溝完掘状況



K-2 遺物出土状況



K-4 柱穴半截状況















# 報 告 書 抄 録

ふりがな	しまんとしまいぞうぶんかざいはーくつちょうさほうこく								
書名	四万十市埋蔵文化財発掘調査報告								
副書名	平成10年度～平成16年度 古津教遺跡群試掘調査報告書								
巻次									
シリーズ名	高知県四万十市文化財調査報告								
シリーズ番号	第2輯								
編著者名	川村 慎也								
編集機関	四万十市教育委員会								
所在地	〒787-0012 高知県四万十市石山五月町 8-22 TEL.0880(3)47311(生瀬学館課)								
発行年月日	西暦 2007年3月10日								
所収遺跡名	所在地		コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
	市	町 村	道	番					
古津教遺跡群	四万十市古津賀	39207	0700211	字西中野、ホウソボウ 地	32° 59' 8"	132° 57' 12"	980413～980731	721㎡	区画整理 (A区)
	字松原、北東澤 地			32° 59' 14"	132° 57' 19"	980916～981021	300㎡	区画整理 (B区)	
	字西中野、原ノ下			32° 58' 59"	132° 57' 10"	990824～990930	448㎡	民間開発 (C区)	
	字カドノハナ、オケルザキ			32° 59' 15"	132° 57' 24"	991124～000108	1,030㎡	区画整理 (D区)	
	字西平ルサキ、ノジリ 地			32° 59' 8"	132° 57' 21"	000727～001006	800㎡	区画整理 (E区)	
	1307-1 地			32° 58' 56"	132° 57' 8"	010615～010626	24㎡	区画整理 (F区)	
	字池ノ和、森和田 地			32° 59' 12"	132° 57' 28"	010827～011114	315㎡	区画整理 (G区)	
	字西中野			32° 58' 32"	132° 57' 12"	020819	18㎡	区画整理 (H区)	
	字尾崎ノハナ 1849			32° 59' 3"	132° 57' 23"	020805～020820	126㎡	区画整理 (I区)	
	字春日田、池田 地			32° 58' 59"	132° 57' 27"	020930～021028	640㎡	区画整理 (J区)	
	字32番区6画地 地			32° 59' 3"	132° 57' 12"	030414～030502	150㎡	民間開発 (K区)	
	1842-8			32° 59' 4"	132° 57' 21"	030307～030509	25㎡	民間開発 (L区)	
	字正分、コシ原 地			32° 58' 54"	132° 57' 24"	031007～031017	192㎡	区画整理 (M区)	
	22番区7・8画 地			32° 59' 3"	132° 57' 24"	041013～041015	50㎡	民間開発 (N区)	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
古津教遺跡群	集落	弥生時代 古墳時代	柱穴部 溝 土坑	弥生土器 石鏡 土師器・須恵器 手づくね土器	弥生時代中期晩段以降の遺物 古墳時代前期関連遺物				